京城日報

二十六日夕刊

定價 本紙一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾錢 (郵送料前金)一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢▲雜報欄內一行金一圓▲所指定一行金拾錢增▲三號活字の一行は二號活字同樣▲六號活字の一行は五號活字同樣の事
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 谷口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 編輯用長三四五番 營業用長一二六番 振替貯金口座京城六〇〇番

○駐支獨逸公使の狼狽

英支同盟を聞ける獨逸公使ヒンツエ氏は非常に狼狽し其眞僞を確むる爲め二十三日夜九時陸外交總長を訪問せり(北京特電)

○支那加盟は孰れも否認

英國側は協商側が支那引入交渉をなし居るを否認し露國側は支那の加入を歡迎すると共に日本も此の同盟より利益を受くべきを主張し居るも正式には聞く所なしと言ひ居れり陸總長は獨公使の質問に事實無根の返答をなせりと又佛國側も本國より何等の訓令をも受け居らずと總統府側も亦正式交渉なしと謂ひ居れり(北京特電)

歐洲大戰亂

▲一層親近の狀を示す 希臘の對聯合國態度

希臘の對聯合國態度は漸次一層親近の狀を示せり閣員は曰く、希臘は中立を維持す可しされども聯合國軍隊が希臘國に入り來ること何人も之に反對せざる可しと(倫敦電報)

▲多惱河通航請求拒絶

獨逸は羅馬尼に對し多惱河の全航路に於て砲艦の通過を許可せんことを請求し羅馬尼は之を拒絶したりと(倫敦電報)

▲塞國兩市陷落

ブリスチナ(ウスツブの北六十哩)及びミドロウイツア(ブリスチナの西北三十哩)兩市陷落せり(倫敦電報)

●明年度總督府豫算

歳入歳出額五千九百五十四萬九千餘圓 前年度豫算に比し九十八萬八千六百餘圓の增加

總督府にては二十六日大正五年度朝鮮總督府各特別會計豫算を發表せり其の綱要左の如し

一、總說

大正五年度豫算は既定の財政獨立計畫に基き之を編成せり然れども前年來の穀價低落及び歐洲戰亂の爲蒙りたる一般經濟界の不振は未だ恢復の曙光を認むる能はず之が爲關稅、遞信及び鐵道收入の如きは多大の影響を蒙り該計畫の歳入見込額に比し多額の減少を見るに至りたるも本年度豫算に於ては既定計畫に基き一般會計補充金は豫定の通り之を減額する爲歳出豫算に於ては專ら節約を主とし勗めて政費の膨脹を抑制し概ね事業の進捗に伴ひ避くべからざる經費の增加に止むるの方針を採りたり今前年度實行豫算に比し增減の主なるものを擧ぐれば左の如し

▲歳入の增加

印紙收入	六八六、八六四圓
蔘業收入	三〇六、九五〇
營林廠收入	一、三六二、五〇一
事業費資金借入金受入	一、九五〇、六七三
其の他の收入	七〇六、七七六
計	五、〇一三、七六四

▲歳入の減少

關稅	九二〇、〇七五
補充金	一、〇〇〇、〇〇〇
前年度繰入金	一、七四六、九三〇
其の他の收入	三五八、一一九
計	四、〇二五、一二四

▲歳出の增加

紅蔘製造高增加に伴ふ經費	七六、四三一
登記及び證明等に要する經費の增加	一七三、八七六
諸學校經費の增加	九四、五七一
營林廠經營費	一、二〇四、九二四
遞信事業增進に伴ふ經費	九〇、六七五
國債利子等の增加	五七〇、八五九
臨時土地調査費の增加	一八八、二六一
木浦水道償却補助	八五、八五〇
總督府廳舍新營費	二〇〇、〇〇〇
道路修築費の增加	二三〇、〇〇〇
海關工事費の增加	七〇、六七三
鐵道建設及改良費の增加	八一〇、〇〇〇
釜山鑿平地買收費	三六一、〇〇〇
其の他の歳出	一、三〇九、八〇一
計	五、四五六、九二一

▲歳出の減少

國債元金仕拂の減少	一、五〇〇、〇〇〇
土木費補助の減少	一〇二、五〇〇
東洋拓殖株式會社補助	三〇〇、〇〇〇
營繕費の減少	四六四、五四九
始政五年記念共進會費	三〇八、三二〇
其の他の歳出	一、七五三、一九九
計	四、四二八、五六八

二、歳入

大正五年度歳入豫算總額は五千九百五十四萬九千百四十七圓にして前年度實行豫算總額五千八百五十六萬五百七圓に比較すれば九十八萬八千六百四十圓を增加す而して大正五年度豫算總額の內經常部に屬するもの四千百五十六萬千六百二十六圓臨時部に屬するもの千七百九十八萬七千五百二十一圓なり

經常部歳入豫算額四千百五十六萬千六百二十六圓を以て前年度實行豫算額三千九百七十七萬六千七百二十九圓に比較すれば百七十八萬四千八百九十七圓を增加す是れ主として朝鮮森林特別會計廢止に伴ひ營林廠の收入百三十六萬二千五百一圓を本會計に移したるに依るものにして其の增減の主なるものを擧ぐれば

租稅に於ては四十三萬六千百八十八圓を減少す是れ主として關稅の減少するに由る

印紙收入に於ては登記其の他印紙貼用事項の增加に伴ひ六十八萬六千八百六十四圓を增加す

官業及官有財產收入に於ては百四十八萬三千六百三十八圓を增加す是れ主として營林廠收入百三十六萬二千五百一圓を本會計に移したると紅蔘製造高增加に伴ふ收入三十萬六千九百五十圓を增加するに由る

臨時部歳入豫算額千七百九十八萬七千五百二十一圓を以て前年度實行豫算額千八百七十八萬三千七百七十八圓に比較すれば七十九萬六千二百五十七圓を減少す

此の減少を見る所以は事業費年割額の增加に伴ひ借入金受入に於て百九十五萬六百七十三圓を增加すと雖既定計畫に基き補充金百萬圓を減額したると共に前年度剩餘金の繰入百七十四萬六千九百三十圓を減少せるに由る

三、歳出

大正五年度歳出豫算總額は五千九百五十四萬九千百四十七圓にして前年度實行豫算總額五千八百五十三萬七百九十四圓に比較すれば百一萬二千二百五十三圓を增加す而して大正五年度豫算總額の內經常部に屬するもの三千七百七萬三千百五十五圓臨時部に屬するもの二千二百四十七萬五千九百九十二圓なり

經常部歳出豫算額三千七百七萬三千百五十五圓を以て前年度實行豫算額三千六百七十一萬三千百一圓に比較すれば三十六萬五十四圓を增加す

經常部歳出に於ては諸般の經費に對し尠なからざる緊縮を施したるも尙前顯の增加を見る所以は公債元金償却等の減少せるものありと雖事業の進捗に伴ふ事實及び遞信事業の增加、學校の增設、不動產の登記證明及び土地臺帳規則實施等に伴ふ增費並朝鮮森林特別會計廢止に伴ひ營林廠の經營費百二十萬四千九百廿四圓を本會計の支出に移したるに依る

臨時部歳出豫算額二千二百四十七萬五千九百九十二圓を以て前年度實行豫算額二千百八十一萬七千六百九十三圓に比較すれば六十五萬八千二百九十九圓を增加す

臨時部歳出に於ても營繕費等に痛く節減を加へたるも道路、海關及び鐵道等借入金支辨事業費既定年割額の增加及び事業進捗に伴ひ經費の增加を要するものあると本年度に於て一二新に企畫せるものあるとの爲前顯の增加を見るに至れり

今本年度歳出豫算中事業の進捗に伴ふ增額の外新に施設せんとする事項の重なるものを摘記すれば左の如し

一、平壤中學校及大邱高等普通學校の新設並總督府醫院附屬醫學講習所及び中央試驗所附置工業傳習所を各專門學校に變更する爲め其の經費八萬二千二百四圓を計上せり

一、勸業模範場に於て牧馬事業開始の爲め其の經費四萬九千五百七十九圓を計上せり

一、中央試驗所に於て衛生試驗開始の爲め其の經費一萬七千七百七十三圓を計上せり

一、時局の爲め藥品等の價格騰貴に伴ひ朝鮮醫院及濟生院支出金增額の必要あり二萬圓を增加計上せり

一、水產試驗擴張の必要ある爲め其の經費三萬九千八百七十六圓を計上せり

一、木浦水道事業償却に對し補助の必要ある爲八萬五千八百五十圓及び地方費經營に係る海州水道工事に對し補助の必要ある爲二萬圓を計上せり

一、總督府廳舍新營の必要あり總額三百萬圓を本年度以降八箇年度に亘る繼續費とし其の年割額二十萬圓を計上せり

一、保留鑛山の試堀進行に伴ひ金銀鉛混合試製錬を行ふ爲其の經費五萬八千四百二十二圓を計上せり

一、前年度施行の治水及び水利踏査を基礎とし進んで具體的實施設計を立つるの必要ある爲其の經費四萬圓を計上せり

一、釜山鑿平地の賣却進捗せざる爲韓國政府の與へたる許可條件に基き之か買收の必要あり本年度に於ては差向き卅六萬千圓を計上せり

而して以上の外は概ね既定の方針を踏襲し財源の許す範圍內に於て教育產業等諸般の施設を進め又土地調査完了地方に於て各種機關に多少の充實を加へたる等に過ぎず

朝鮮鐵道用品資金會計

大正五年度豫算總額は五百五十五萬八千二百十七圓にして歳入歳出同額なり故に差引損益を生せざるものとす今此の歳入豫算總額を以て前年度歳入實行豫算總額五百二十七萬四千百三十四圓に比較すれば二十八萬四千八十三圓を增加し歳出豫算總額を以て前年度歳出實行豫算總額五百三十三萬千二十六圓に比較すれば二十二萬七千百九十一圓を增加す是れ鐵道事業の進展に伴ひ用品及び工作費の增加せしに由る而して前年度豫算の歳入額と歳出額とに差異を生せしは五年度豫算との比較對照上歳出豫算に於て朝鮮總督府特別會計より組替へたる五萬六千八百九十二圓を增加したるが爲なり

醫院及濟生院特別會計

大正五年度豫算總額は百二萬七千六百二十二圓にして歳入歳出同額なり今此歳入豫算總額を以て前年度歳入實行豫算總額九十四萬六千四百九十四圓に比較すれば八萬千百二十八圓を增加し歳出豫算總額を以て前年度歳出實行豫算總額九十二萬九千三百十五圓に比較すれば九萬八千三百七圓を增加す

是れ歳入の增加は主として時局の爲藥品等價格騰貴に伴ひ藥價の引上げを爲したると及び政府支出金を增額せしに由るも歳出の增加も亦同じく藥品等の價格騰貴に伴ふ患者費の增加並新に傳染病及び地方病の病源調査を開始する等に基くものなり而して前年度豫算の歳入額と歳出額とに差異を生せしは五年度豫算との比較對照上歳出豫算に於て醫學專門學校設立の爲朝鮮總督府特別會計へ組替たる一萬七千百七十九圓を減少せしに由る

同資金部大正五年度歳入豫算總額は一萬三千五百圓にして歳出豫算總額は七萬三千三百十三圓也今此歳入豫算總額を以て前年度歳入實行豫算總額一萬一千三百二十二圓に比較すれば二千百七十八圓を增加し歳出豫算總額を以て前年度歳出實行豫算總額六萬三千八百三十五圓に比較すれば九千四百七十八圓を增加す是れ歳入の增加は前年度歳入殘餘繰入の多きが爲にして歳出の增加は有價證券の購入多き見込なるに由る

歳入歳出豫定額總計表は二十七日朝刊に讓る

●選擧運動開始

認可早しと聞き候補者戰を宣す

京城商業會議所の定款が脫稿し其の筋に提出され而かも認可意外に早しとの報本紙に依りて傳へらるゝや左なきだに今回の選擧には否が應でも候補者として立ちたしと野心滿々たる人々は所謂暗中飛躍を試むる者續出し陰に陽に有權者側に當りをつけ居たりしが最近同定款が總督府に廻附されたりと聞くや一層其火の手を高め就中三好和三郎氏の如きは早くも一級選擧有權者に向つて突擊戰を開始したるを繼頭に公然又秘密一般に緊張し來りたるは事實なり

▲選擧名簿脫稿 日本人會議所に於て調製中なる選擧名簿も二十五日迄全部完成し被選擧人名簿も亦数日中に脫稿す可き模樣なり選擧名簿の內容は素より報道の限りにあらざれども會議所の會員たる者にして當然會議所の會員たる可きものは五百九十七名ありと云ふ其內會議所の課稅總額を二分して双方を一級二級と稱するものなるが其一級有權者は內地人三十二人朝鮮人八人あり約五百五十七名中略一級同樣位の割合を以て內鮮人別に有權者の數を有し居れり尤も愈々選擧を決定したる上は內鮮人別に一級及び二級何人を選擧すと告示するは定款の定むる所なり

▲新舊候補三十八人 今回の選擧には銀行會社側は朝鮮の原田金之祐氏を除くの外全部候補者として立たざることに決定し居れりと聞くも其他の實業家は現在の日本人會議所議員中三四名の外は殆んど候補者として立つ可き雲行なり新顔として傳へられつゝあるは梶原末太郎、釘本藤次郎、辻本嘉三郎、遠藤嚴吉、三好和三郎、廣江澤次郎の七氏を數へ居れども到底是れ位にて治まる可くもあらず期日の切迫するにつれ新顏の出づるは從來の例とする所なるが何しろ舊議員二十三名に新顏の七名を加へ合計三十名にて定數一杯なれども消息通の語る處によれば四十名位の候補者を出す可き筈なりと云へば勢ひ猛烈なる爭奪戰の行はるゝは必定にて就中二級に於て最も劇甚なるべしと

●定例長官會議

二十六日は定例長官會議日とて午前十時より總督府第一會議室に開會、山縣政務總監以下各部長官、局長等出席し通常政務に就き打ち合せの上正午散會したり

●大田氏送別宴

朝鮮銀行滿洲總支配人として大連に赴任すべき大田三郎氏の送別會は京城銀行集會所主催にて二十五日午後六時より千代本に開かれ官民有志五十餘名來會頗る盛會なりき

人事消息

▲萩原吉五郎氏(京城憲兵隊副官) 二十五日開城より歸任
▲白川友一氏(香川縣代議士) 二十六日安東方面より通過內地へ
▲荻川悅造氏(總務課長) 前號總督府に出頭の旨記せるは誤聞に付訂正

南言北語

塞軍の孤軍奮鬪の模樣は實に健氣だ▲當分の間とは云へニッシ、ヴラニヤ間の鐵道を占有する事が出來るなんて孤軍奮鬪を破つて踊る、一百の里程は鼬鼠の間を誇つてやりたい▲同じ樣に贈れてぞ白耳軍よりは塞耳維の方が武士的らしい▲英支同盟の報があつたからまさかと云つて置いたら何うもほんとのまさからしいやろうものなら兩方が眞逆樣になるからナアとは惡い洒落だ▲厄介なのは支那問題だイヤ厄介にしたから仕樣がない最う大抵に日本も獨りで歩行が出來さうなものぢやが▲東洋の盟主も手を引かれつゝ盟主になつたつて餘り名譽でもないこつちで手を引いてやらなければならぬのが支那ぢや▲其の手を引いてやるのに此方がまだ手を引かれて居るから押しも何も利けたものぢやない▲單獨非媾和一坐に加入したから一等俳優になつて身を高くすれば支那も協商側に加名したら一等俳優だと鼻を高くするに違いない▲面うすれば警告なんどは蚤の食つた程にも思はぬのみかあべこべお尻を付けて返上し兼ねまい▲芝居も斯うあつては役者よりも見物の方が腹が立つ何うしても終には剃刀が飛び出さねば落になるまい豈唯爲さんのみならんや▲大きな剃刀は最う南支那で大分砥石にかゝつて居るから鼠から剃るか鼻の孔から剃るか大向ふには待ち兼ねた見物が多い▲サア其の芝居の一方の大立物が彼方此方へグラ／＼して手を引かれて居ては埒らない支那の現下の三ツの難題は何う解決なさるゝ▲帝政の御本尊樣より何うやら此方が急がしくなつて來た又た土俵際で背負投げは七千萬の見物が許さぬよ

七十八日遊記

定價七十五錢 郵稅本社持

本書は德富蘇峰氏が支那旅行記にして久しく品切の處此度增補第四版印刷成り從前の定價を半減し特價七十五錢にて發賣せり當時氏の足跡朝鮮滿洲北滿より長江一帶に及び其人情風俗を察する傍ら最も力を支那の過去現在將來の論究に注ぎたり其議論の堂々たる觀察の精判なる世自ら定評あり今や添ふるに支那革命に關する著者の論文數章を以てしたれば錦上更に花を添ふるの觀あり久しく渴望せし江湖の讀書子を滿足せしむべくも苟も隣國の事に注目するの士は本書を讀まざる可らず

京城日報社代理部

公告

左ノ不動產ヲ左記ノ日時ニ於テ競賣ニ附ス競賣保證金ハ申出額ノ十分ノ一

京城地方法院

●京城府孝子洞六十四番地
一、垈百四十七坪 最低競賣價額金四百十一圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪四十三坪九合五才 最低競賣價額金三百七圓也

京城府宮井洞九番地
垈八十一坪 最低競賣價額金百九十四圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪十三坪五合六勺五才
附屬木造草葺平家建本家一棟 建坪四坪三合八勺 最低競賣價額金九十七圓也
右不動產所有者 金[illegible] 申立人 市村[illegible]

●抱川郡新北面(舊北面)二[illegible]
山野二十六町一畝十五步 最低競賣價額金八十圓也
右不動產所有者 趙[illegible] 申立人 趙[illegible]

●京城府敦義洞百四十六番地
垈三十六坪 最低競賣價額金二百七十圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪十七坪二合三勺五才 最低競賣價額金百三十三圓也
右不動產所有者 李[illegible] 申立人 李[illegible]

●京城府益善洞九十五番地
垈二十二坪 最低競賣價額金百二十三圓也
同地上ニ建設
木造草葺平家建本家一棟 建坪十二坪三合 最低競賣價額金三十六圓也
右不動產所有者 崔[illegible] 申立人 金[illegible]

●京城府敦義洞五十五番地
垈二十四坪 最低競賣價額金百六十八圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪十九坪三合八才
附屬木造草葺平家建一棟 建坪四坪八合四勺二才 最低競賣價額金百三十八圓也
右不動產所有者 林[illegible] 申立人 尹[illegible]

●京城府御成町五十三番地
垈二十八坪 最低競賣價額金百四十圓也
同地上ニ建設
木造草葺平家建本家一棟 建坪十三坪八合五才 最低競賣價額金四十一圓四十一錢五厘也
右不動產所有者 嚴[illegible] 申立人 林田[illegible]

●京城府花園町六十九番地
垈三十四坪 最低競賣價額金二百五十五圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺二階建本家一棟 建坪二十四坪一合五才 外二階坪十七坪二合二勺 最低競賣價額金三百七十三圓也
右不動產所有者 東京建物株式會社 申立人 三好市太郎

●京城府仁寺洞二百三十六番地
垈百坪 最低競賣價額金二千四百六十圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪三十六坪七合一勺五才
附屬木造瓦葺平家建一棟 建坪三十六坪九合二勺 最低競賣價額金二百二十一圓二錢五厘也
右不動產所有者 李[illegible] 申立人 村田三郎兵衛

●京城府[illegible]
垈十五坪 最低競賣價額金百四十二圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪十一坪八合五勺五才 最低競賣價額金六十一圓也
右不動產所有者 [illegible] 申立人 [illegible]

●高陽郡碧蹄面官山里訓字
三斗落 最低競賣價額金百七十圓也
同所訓字舊一里外
田二斗落 最低競賣價額金十四圓也
同所訓字新地
田一斗落 最低競賣價額金一圓六十錢也
同上
田一斗落 最低競賣價額金一圓六十二錢也
右不動產所有者 [illegible] 申立人 [illegible]

●京城府元町四丁目九十三番地
垈三十八坪 最低競賣價額金三百三十圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺二階建本家一棟 建坪十一坪六合二勺 外二階坪六坪六合 最低競賣價額金百三十六圓也

京城府元町四丁目百五十一番地
垈四十坪 最低競賣價額金三百八十圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺二階建本家一棟 建坪十三坪一合三勺 外二階坪十坪一合 最低競賣價額金百五十六圓也

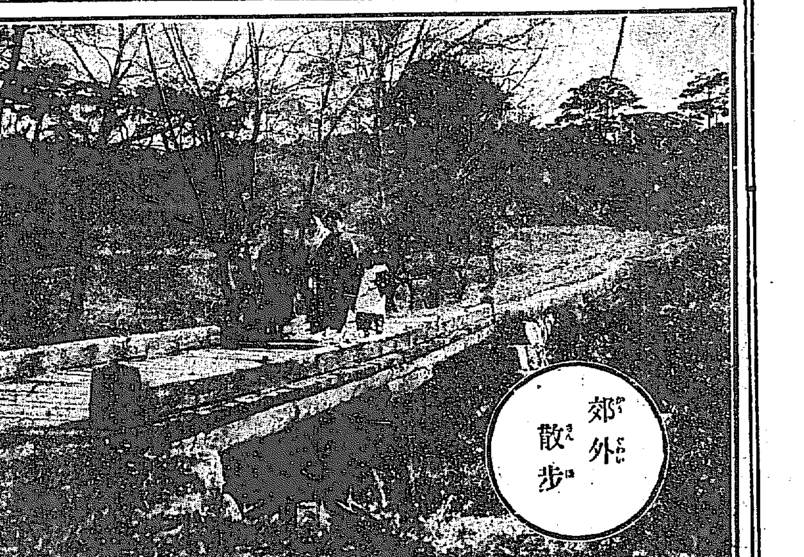
京城府元町三丁目百三十八番地
垈五十坪 最低競賣價額金三百八十九圓也
同地上ニ建設
木造瓦葺平家建本家一棟 建坪二十九坪二合二勺 最低競賣價額金百四十二圓也
右不動產所有者 野口政次郎 申立人 株式會社朝鮮商業銀行
右競賣期日時ハ大正四年十一月三十日午前十時トス

告京城分會員

大禮大觀兵式參列ノ爲小林分會長及春山少尉明廿七日朝南大門發東上ス

帝國在鄉軍人會京城分會

優良石鹼
花の都
マスト石鹼發賣元
東京 大阪 野村外吉商店


郊外散步

●不敵なる獨逸俘虜 福岡收容所の警戒俄に嚴重となる

福岡收容所俘虜將校の逃亡計畫は久しき以前より密計を凝したるものにてワルデック總督ザクサー參謀長も之れに干與せるものゝ如く特に文官にて愛嬌者のハック博士をして商人其他により日本の事情を聞知らしめ病氣の治療其他に事寄ては市內に外出し其間日本地圖等を買集めたるも軍服以外に私服なきより變裝のみは意の如くならざる爲め種々考案の結果ザルデルン夫人イルマが一週一回面會に來るを奇貨とし之を利用して

■逃亡の密議を凝しザルデルン夫妻が面會する場合は必ず收容所員が立會ふ規定なるも馴るゝに從ひ所員は室外にありて時々時間を通知する位となりたれば此間兩者の間に服裝其他の密議をなしたるものゝ如し斯くて先づ最初に比較的年少氣鋭の五名を逃走せしめんと企て特にワルデック總督腹心の副官として常に樞機に參與せるケンペン中尉を逃亡の魁としたるものなるべし脫出決行期につきては彼等は靑島陷落の當日即ち

■十一月七日とすべき決心なりしも近く御卽位の大典に際し福岡市に松囃子騷ぎあるを聞込み扨こそ同十日以後に決行したるものにて其の後二回三回と續行する豫定なりしが如し更に今回逃走準備を手傳ひたるザルデルン妻イルマは日本人が同市外簑島の住宅に來る事を大に嫌ひ如何にかして日本人の來らざるやうなしくれと屢々門司シーメンス、シュッケルト會社支配人に交涉したりといふ

■ワ總督の喚問 二十三日午後河內旅團長は旅團長室にワルデック總督を引見し久山收容所長、長久保憲兵隊長等立會ひ伴輝吉氏の通譯にて訊問を始めたるがワルデックは『今回の如き不始末を惹起したるは全く自分の監督不行屆なり』と謝罪し旅團長はワルデックに向ひ『今回の事件に關係したるや』と訊ねたるにワルデックは『自分は何等關係なし將校の間には望鄉熱旺んなる事は明白なるも逃亡に就いては何も知らず』と述べ其他二三の問答あり訊問約二十分に亘れり

■警戒俄かに嚴重 福岡俘虜收容所にては其後思ひ出した如く警戒を嚴重にし今回の大椿事を惹起したる原因は全く大切なる人員點呼を下士をして行はせたる不注意に起因するを以て廿一日より俘虜將校の人員點檢は下士卒と同樣日直將校が同所に赴き全部を整列せしめ赤十字社にてはワルデック總督ザクサー參謀長等六名を階下の廊下に整列させ右終るや日直將校は更に物產陳列場に赴き同收容の四十餘名の將校を同階下の食堂に整列せしめて人員の點呼を行ひつゝありかくてこれまで俘虜將校が唯一の慰藉とせし室內及び室外の

■遊戲は之を嚴禁 し若し室內に於てハモニカにても吹奏したる時は直に營倉に處する旨嚴命し且つ午後九時消燈喇叭を吹奏すると同時に就寢させ若し一人にても就寢せざる者は嚴罰に處する等頗る警戒嚴重となれり(門司)

●蜜柑箱から生首 慘殺された二十五六歲の支那人

安東縣七道溝なる牛乳搾取業鴨江牧場の使用人某が二十四日早朝牧場附近に新しき一個の蜜柑箱の放棄しあるを發見し不審に思ひ之れを破壞し見れば驚く可し一見二十五六歲と覺しき支那人の生首現はれたるにぞ同人は事の餘りに意外なるに打驚き早速此旨其筋に訴へ出でたるに係官出張取調べの結果右は餘程鋭利なる刃物にて殺害したるものゝ如く被害後二三日を經過したるものと判明せるが屍體は直ちに支那官憲に引渡すと同時に犯人搜査に着手したり

●釜山日報社全燒

廿六日午前四時四十分釜山日報工場より發火し全燒、同六時鎭火、原因損害不明(釜山特電)

芥川正氏の經營せる釜山日報社は釜山市街の中央に蟠居せる龍頭山麓辨天町の地(辨天町二丁目)に位置し同業朝鮮時報社と隣接し道路を隔て、東本願寺、商業會議所と相對す明治四十四年大廳町四丁目より市街殷賑の地たる現在の地に移轉したるにて建物は元弘道館兩街路の跡なり木造二階建(中央編輯、營業、職場、臨時各部)木造平屋建(北端工場、鑄版、寫眞銅版各部)及び社長住宅(南端二階建)より成り移轉と同時に大に築造を加へ最近更に社長住宅の增築を爲し瓦斯エンヂンを使用しルビ附新活字を用ひ寫眞銅版、紙型鉛版等逐年改良に向ふ途此災厄に遇ひしは同情に堪へざる所なり電文簡にして詳細不明なるも思ふに社長住宅も類燒せしなるべし

●秋の夜は靜座 讀書の趣味 日記類の新版 雜誌の賣行き

散步には寒くさりとて夜長のつれづれに無聊を感ずる昨今京城の讀書界も大分活氣づいて來た、本町附近の書肆を覗いて見ると例年の如く何處も日記類で賑はつてゐる、種類の最も多いのは博文館のもので實用として商家に用ゐられ春陽堂、大倉書店を始め各書肆雜誌社から發行されるものも隨分あるがいづれも

■大同小異 各新を競うて工風を凝らしてあるものゝこれぞと飛びつく程のものもない、此の中で今年始めて生れたのだが民友社發行の國民日記が異彩を放つてる樣だ、吾々の日常生活に必須の事項が各頁の末段に詳しく記されてあるのが一の特色であるのは日記と常識辭典を兼ねた樣なもので頗る便利であるらしい、一躍して日記界に重きを爲すに至るだらうとも思はれる、京城などは各種のポケット日記と共に智識階級に歡迎されてゐる、十月から十二月にかけては各種の出版が多くる

■新刊物も 可なり來るが賣れるのは矢張り法律書が多いのは役人の多い京城としては然もあるべき事だが一般に讀書力が進んだといふものか眞面目な書籍が多く出る樣になつた、雜誌では婦人子供雜誌のいづれを問はず殖えるばかりのもの面白く其他は大した動きはない、尙ほ今年もそろ／＼歌留多時季に入つたが昨今は殆んど標準歌留多ばかりになつたのは例の大和假名の難解なのに較べて判り易いためだらう、これが今年の新しい傾向だといふ

●慶寶丸甲板より投身す 詐欺取財の嫌疑

京都府南桑田郡龜岡町字今津七番地當時木浦府務安通五番地渡邊鏡(四五)は四五年前より渡來し近來は專ら田畑賣買仲介を業として傍ら保險勸誘員となり居りしが嘗て仲介せし土地賣買に關し詐僞取財の犯罪あり木浦警察署より本人の出先麗水警察署に其の護送方を依賴し同地より二十二日慶寶丸にて出發同日午後七時頃興陽灘に差掛りたる頃便所に行く爲め船室を出でたる儘歸來せず行方不明の爲め一同大に驚き搜索の結果海中に身を投じたる事判明せり本人の平素を知るものは曰く詐欺の嫌疑位にて自殺決行は聊か早計なれば他にも幾個の犯罪伏在せるにはあらずや左記二通の遺書に因れば別段精神に異狀ありし樣子もなしと

(妻宛)[illegible]

(下條忠四郞氏宛)私心中[illegible]

●浦項沖に漁船十數隻難破す

二十四日午後十二時頃より突如慶尙南道慶州郡地方に暴風起り甘浦沖合は激浪一刻一刻と增して折柄出漁中の漁船は斯の不意に大に狼狽し何れも避難に努め居れる中漁船福壽丸は顚覆し乘組員三名中二人は漸く救助されしも一名は遂に行衞不明となりたりと又二十五日夜十時頃より浦項地方俄然暴風吹きたり同夜十二時頃より海上は山なす狂瀾怒濤にて大に荒れ出漁中なりし發動汽船外十六隻の漁船は見る間に岸に吹き附けられて難破したるよりこの急報に接し浦項分隊より憲兵急行し多數の洞民を督し遭難者救助に努めたるが詳細目下取調中なりと

●儲ける人、損する人 『朝鮮の米相場で生死する人々』(其二) 朝鮮は朝鮮で特殊の材料

仁川の取引所が近來珍らしい活氣を帶んで來たのは抑も如何なる原因からであらうか、結局は內地から來た電報に動かされたものである、內地の景氣は馬鹿によい、株は大したもので一日に二十四萬株の出來高があつた、生糸も素晴らしい景氣、所で米の相場はドーかと云ふに强氣の一派は

■此年の作柄は平作 以下だと悲觀して居る、加之に歐洲戰爭の影響を受けて外國米の輸入は尠なく、來年の米界は必ず供給不足を告げるであらうと云ふ先高理想で正米よりも一圓二三十錢乃至四五十錢も割高の相場を出した、併し乍ら仁川の取引所では斯る情報に接しながら大阪の相場には附隨せない、丁度正米と同格の値段に居るから不思議である、昔は大阪の電報で隨分猛烈に動かされたものだが今では却々に著實になつて一寸やソットでは動されない、朝鮮には

■自ら朝鮮丈の材料 がある、其爲めに仁川の相場は大阪の相場に附隨せないのだ、殊に仁川には賣が多い中には利喰い急ぎがある、九圓の米を九圓五十錢で一萬石も買ば忽ちにして五千圓の儲がある譯だ、大阪の立直りは餘り確な材料がないではないか、何時かは押して來だらうと云ふ見解の筋は買る、其上朝鮮人側では

■仁川の取引所は建米が古米で、受渡代用の新米は當月切が三十錢十二月切が五十錢一月切が七十錢二月切が九十錢丈格上されて居る、而して今や新米の出盛期に際して居るから此格上丈の鞘を見込むで賣りに出て居るものもある、兎も角も昨今の定期市場は

■賣買兩者の見解を 大に異にして居るから勝負も大きく素人の目にも面白く見えるのである儲けた人もあれば損をする人もある儲けた金は花柳界や吳服屋に流れて行く、損をした人の着物が質屋に入つて金になるのもある、併し勝負が早いから今朝質屋の門を潛つて僅か一日で一月分の利子を拂つた人がその夕景には靑樓の二階に丹前を着流して居るのもあつて悲喜交々至るのは此社會の常事であるとか

●今年の新蜜柑は廉すい 景氣付た青物市場

霜月の日も殘り少なくなつて忙がしい師走の月が眼の前に切迫した今日頃日では青物屋の店舖も歲末らしい氣分を帶びて來た、見渡す處芹、蓮根、小芋、午蒡、甘藷、玉葱、山芋、大根、玉菜、白菜、蕪、ちち等の色とり／＼に水彩畫のやうな野菜類も

△有繋に冬の ものらしいが殊に美しい黃色の紀州蜜柑は切實に冬の氣分を現はして居る、紀州蜜柑と云へばすぐに帆前の千石船を連想するが交界離さへ連絡船の通ふ現今では海の暗いのも心配なしにずつと汽車便でやつて來る、而も產地の紀州からは汽車積の大貨物で南大門驛に樂に著くが運賃は四箱一箇の四十錢但し其の內には移入

△關稅五分の お金も含むで木箱に蜜柑を大凡六十個乃至七八十個を容れその箱を又四個括り合せて菰包み一箇とし相場は小賣で一箇普通一圓六七十錢から二圓まで今年は產地の收穫が良かつたけれ共今の處では割合に强氣を示して居る併し何と言ても歲晚の景氣は蜜柑でごわす

△料理屋向き で御坐れ歲末贈答品でござれ昔しからお正月前後にはこれが無くては叶ひませんからなとは問屋の老人の鼻息、追々また十二月の月に入ればお正月用の葉付蜜柑、葉付橙等も來る、花類では松竹梅から根引松、濱柳、水仙花等が來る、續いて正月用注連飾なども來るが是等は主にお向ひの山口縣あたりから移入されるものが多いとのを、兎に角歲晚の青物市場は景氣付いて來た。

◎仁川商校保護者會 仁川公立商業專修學校にては家庭連絡の目的を以て廿七日午後一時より同校講堂にて父兄保護者會を催し生徒の成績品及珠算競技を觀覽に供する由

◎旭扇會は廿七日 春秋庭に開會の旭扇會溫習會は二十七日午後一時よりなり

◎北川金鱗壽會 滯京中の北川金鱗翁は二十七八兩日午前十時より午後五時まで京城ホテルにて作品展覽會を催す由

◎連絡船遲着 二十五日夜入港の壹岐丸は海上風浪の爲め三十分遲刻入港したり

◎仁川消防披露宴 今回仁川消防組組頭を命ぜられたる大村宇三郎同小頭を命ぜられたる和田信彥、[illegible]の三氏は二十六日仁川有志を遊廓樓に招待し披露の宴を催す由

◎見眞大師御正忌法要 南山本願寺にては二十五日より二十八日まで宗祖見眞大師御正忌法要執行毎日午前八時午後二時午後七時勤行引續說敎あり

◎薰風會 京城若草町曹洞宗總本山京城別院に於て廿六日午後七時より發會式施行す

●冬は美人も醜く見える お化粧は何うする? 某老妓の談

寒くなりますとね、何うしてもお化粧が難かしくなります、一つは冷たいので無性をするのですが、何しろ肌がすつかり荒れますのでね、御存じの通り

▲京城などは 空氣が乾燥して居りますのでうつかりすると顏が荒れ白粉もつかずひり／＼痛みを感ずる事があります、之を防ぐには先づ顏の肌地をよく整へ置くのが何よりの肝要です、夜寢る時などは脂肪の多い小鼻のわきや、洗ひ落すに面倒な生え際などは除いて頰、額などに薄つすりとクリームを塗つて置きます、顏を洗ふにも冷水はいけません、熱い柔かなタオルでそつと蒸すやうにして皮膚を柔げた後石鹼なり洗粉なりをつけてしづかに洗ふのです、石鹼氣をすつかり取り、も一度タオルで顏を拭つて今度は化粧下のクリームをむらにならぬやう

▲薄く鄭寧に もみこみ、次に化粧水を塗る、之から後は粉白粉でそつと抑へて置くもよく、煉白粉を塗るもよく、それらは人々の好みによつて違ひますお化粧をして外へ出ますと夏のやうに流れる事はありませんが、目の周圍、鼻のわき、口の邊などに白粉がよる、その時は粉白粉で叩くやうな事をせずに指先で其處を二三回こするとむらがとれ脂肪が程よく乘り出し、丁度天然に白いやうに見え、化粧の仕立よりは反て艶に趣のあるものでございます。

●思惑外づれ 京城仁寺洞百[illegible]は本年一月頃[illegible]とし當時妾の[illegible]は美人を雇ふべしと敎へたるを奇貨とし[illegible]んと企てたるより惡化に告訴され[illegible]鍾路に於て作業中路傍に置きたる曲[illegible]千名に達し仲々の盛況を呈した[illegible]動の男女席の隔離は[illegible]鮮では未だ大した障害もないとあつて[illegible]五十三號なり

天氣 ▲十一月廿七日 晴一時曇 [illegible]

淑女畫報 十二月號 定價二十五錢
書報 今上天皇陛下最近御眞影 ▲三妃殿下と擴子女王の御新婚式 ▲三妃殿下台臨の將校婦人會 御大典列參大臣と夫人 ▲稽古中の五節舞姬 ▲桂袴姿の長岡中將夫人と山脇女史 御卽位式當日の東京市 ▲尾崎紅葉山人の遺族 ▲懸賞寫眞(同じいかちがふか) 寫眞小說 山椒太夫(時代悲劇第三回)
讀物 家庭小說 須磨の家…渡邊默然 貞操に對する疑ひ…與謝野晶子 ▲我母四十六年間の思出…平井晚村 ▲淀君物語…[illegible] 年末年始の贈り物…諸名家 ▲探偵實話『迷ひの夢』…岩井三郞 ▲未婚婦人の發展すべき新天地…高野太吉 ヒステリー眞因療法 ▲最も有効な火災豫防法…染川技師 ▲障子の張り方と火鉢の掃除法 忠臣藏もの語 大石の妻子離別…[illegible]主人
東京 博文館

書籍目錄 無代進呈 數千部の有益書籍を網羅す送料二錢郵送次第進呈 大阪南區瓦屋町四番丁 合資會社 日野商店
大取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

皇后陛下 各宮殿下 御嘉納 國民新聞社編 定價五十錢郵稅八錢
理想の家庭
內容一斑 ▲理想的家庭 德富猪一郞氏 ▲敎育 下田歌子女史 ▲結婚 鳩山春子女史 ▲育兒 瀨川昌耆博士 ▲衞生 吉岡彌生女史 ▲交際 山脇房子女史 ▲住宅 伊東忠太博士 ▲中流の納戶と裁縫部屋 羽仁もと子女史 ▲室內の裝飾 井上秀子女史 ▲庭園 長岡安平氏 ▲園藝 鈴木武太郞氏 ▲臺所 入澤博士夫人 ▲家庭料理 赤堀峯吉氏 ▲家事 [illegible]悅孝子女史 ▲下婢の使方 加藤博士夫人 ▲家庭の娛樂 [illegible] ▲衣服 堀越千代子女史 ▲洗濯 宮川[illegible]女史
本社は現代斯道專門の諸先生が我國家庭の改良向上を圖らんが爲に住宅の建築構造より育兒、衞生、家事、經濟の事に至るまで、家庭に必要なる百般の事項を細大漏さず叮嚀親切に講述執筆せられたものであります。加之も前記各題目の後には家庭便覧として家政上最も大切なる種々の心得を記載し、尙諸先生考案物の鮮明なる寫眞版を挿入してあります。主婦計りでなく家政研究中の女學生諸孃の是非共一冊を左右にせらるべき最新刊の良書でございます。

株式會社 第一銀行京城支店
資本金 貳千百五拾萬圓
積立金 九百廿五萬圓
京城本町一丁目(振替貯金京城一二番)
頭取 男爵 澁澤榮一
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
內地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

……きより回收を企て居る內九月十六日頃出入する河某が雜穀にて酒商……

◎支那教化事業 北京に病院建設の議あり

支那の開發は經濟上のみの問題にあらず廣き意味の敎育方面より支那の文化を進め其の發達を助長することは先進國の當然行ふべき任務にして帝國の支那に負ふ所の責務一は此處にあり其の文化開發には種々の方法あること勿論なるが學校の設立、宗敎の宣傳、病院の開設は列國の現に競ふて支那に行ひつゝある所にして帝國も亦之を爲さゞる可らず布敎傳道の一事は聊か困難の事情なきにあらざるも學校及び病院の設置は進んで之を行はざるべからず

▼東亞同文書院 の既に上海に在るあり同仁會の醫業も亦支那に行はれ滿洲には旅順に工科學堂あり又大連に滿鐵の工業學校あり尙ほ滿鐵地方事業の一として支那人の子弟を敎養する公學堂及び日語學校あり近く同じく滿鐵の經營に係る奉天の南滿醫學堂あり何れも支那の文化開發を目的として設けられたるものなるも之を列國の支那に對する敎化事業に比すれば猶甚だ及ばざるものあり且實際において旅順工科學堂といひ奉天南滿醫學堂といひ其の目的たる支那人敎化の上には未だ顯る效らざる處あり今日迄の工科學堂の生徒は殆ど日本人にして醫學堂も日本人生徒多く支那人生徒尠なく本堂第一期卒業生を出したる大部分は日本人といふ有樣にて是等の敎化機關を以て眞に支那の文化を開發せんとするには前途猶ほ多大の努力を要するものあり而して此際日本の對支敎化策として最も必要なるは

▼支那の內地 に對し在來機關の外更に有力なる敎化機關を設くること是なり本件に就いては滿鐵にても夙に注意する所あり前の南滿醫學堂長にして現に同校の顧問たる滿鐵の河西醫學博士の如き其最も熱心なる主唱者にして此際是非とも北京に有力なる醫學校若くは病院を設置すべしとの議を建て之が實行を望みつゝあり滿鐵會社は近く交涉局出張所を北京に設けんとし對支經營に一發展を試みんとしつゝある今日なれば或は進んで其衝に當るやも知るべからざれど滿鐵自ら經營するか在來の同仁會の事業に援助を與へ其の規模を擴張する事となるか其邊は未だ明白ならず兎に角北京に有力なる敎化機關別して病院を建設せざる可からずとは對支事業に經驗を有する者の皆認むる所なれば早晚必ず之れが實現を見るに至るべし(大連)

……人妻及び娘朴與……を承諾せしめ遂に母子を自宅に連れ込み醜業をなさしめ……

▲城內旭町一丁目七十六番地大工職伊藤福太郎が太平町遠藤醬油店橫手小學校に於て開催したるが何れも入場……

◎大連最近戶口 人口四千餘人增加

最近大連民政署の調査によれば署管內の日本人は大連市、小崗子、沙河口、老虎灘、小平島、臭水屯、華鎭堡、大連灣等を合せ戶數一萬零百二戶、人口男二萬一千零十、女一萬七千七百七十二計三萬八千七百八十二にて內大連市最も多きは言ふ迄もなし支那人は大連及び小崗子にて三萬八千百四十七人、外人百十八人、朝鮮人二十五人なり是等を加ふる時は總人口七萬二千百六十五人にして昨年同期における六萬七千三百十四人に比し四千八百五十人の增加を示す大連附近人口の增加は數年前に比し激甚ならざるも一箇年平均二千人內外の增加を見るは從來の統計に徵し確實なる事實なり(大連)

◎群山輸移出 旺盛

群山に於ける輸移出米は本月に入り頓に激增し昨今米價の昂騰と共に益々旺盛を極め居れるが內地筋より注文頻々として到るも船腹不足の爲め當業者は輸移出意の如くならず本月に入り(二十二日調)既に九萬餘叺の輸移出ありたるも尙ほ且つ倉庫海岸等に停滯堆積せる在米は七八萬叺に達し尙ほ續々奧筋よりの廻著米數量は當港輸出量を超過しつゝありて當業者は一般に船腹の不足を喞ち居れり

◎晉州地方大雨 浮橋爲めに流失

廿四日南鮮各地は近來稀有の大降雨なりしが殊に晉州地方は到る處出水激しく南河の如きは非常の氾濫にて同河に架したる浮橋は中央を殘して兩端約三分通り流失せり而して此れが爲め對岸の交通全く杜絕したるを以て汽船にて運輸の便を助けつゝ有るが平素にても交通機關の完備せざる地方とて一般人の不便此の上も無く何れも當局に向ひ架橋の事を切望して止まざる由(晉州電話)

◎全州市場整理

全州懸案中の一として數年前來識者の間に唱道せられたる全州市場整理問題は昨今に至り全州警察署長の畫策に依り全州衞生組合の事業に委ね十箇年賦償還方法の下に經費一萬圓の借款を起し現在開設しある南、西門外兩市場を打つて一丸とすべく兩市場の中央地域約六千坪の讓渡を受け理想的市場建設の準備整ひ不日實行の運びに至るべしと

◎李全北長官歸任

御大典參列の爲め京都出向中の同長官は去る二十三日午前十一時松井第二部長其他官民多數の出迎を受け滯りなく歸任せり

◎全州課稅問題解決

全州學校組合本年度の賦課率頗る高きに失する理由を具し組合會に向ひ賦課低減方を請願するものあり爲めに一時賦課問題なるものを惹起し其の後組合にては議員中より審査委員を設け協議者の資產並年收穫の實狀調査をなしたる結果夫々關係者に對する課率の變更を行ひ漸くにして賦課問題の解決を告げたり

◎全州郵便局移轉期

今春來全州目貫の中央地點を相し新築に取掛りありたる全州郵便局廳舍工事は豫期の如く進捗を告げ目下電話電線の架換取附中なるが愈々新廳舍に移轉すべきは來る十二月一日の豫定を以て引越準備を凝らし居れり

◎忠南の勤儉貯蓄獎勵

勤儉貯蓄獎勵の爲總督府より忠南に派遣せられ道內各地に於て巡回講演を爲しつゝある總督府囑託村上唯吉氏は十月二十七日來道來月二十七日迄に道內全部終了の豫定なるが各地共多數の來會者を見つゝあり

◎全北雀獲取數

全北道廳の調査に依れば今春以來道內に於ける害雀驅除成績を見るに第一、第二、第三期を合算すれば累計實に百六十五萬九千九百五十の多きを算し居れるが第三期間に在りては二十三萬四千餘の親雀と十四萬八千餘の雛と九萬二千餘の卵とを狩り得たりと

◎忠州より

黃色煙草●●● 本年度耕作反別は二百餘町步收穫見込六萬貫にして目下組合倉庫に收納中なるが氣候不順の爲め生葉の品質不良なりしと生產粗惡の爲め價格著しく下落し前年の二倍增收の係らず價格は殆んど大差なきもの如く耕作者中多大の缺損を蒙れるものありて不平の聲は翕然として專賣課出張所の等級查定を非議し內地人耕作者間に於ては煙草耕作組合改革の聲稍沸騰せるものゝ如し▲忠州最近●●● の經濟界は不振の極にありて賣掛代金の回收は依然として停滯し商況活潑ならず煙草代金の交附を旱天の虹霓視せりと雖も或る筋なる所より聞知するに本年中には全部の拂出困難なりと謂へば年末の經濟界は恢復の見込なく殊に今や多物の仕入時機にありて資金の需要を喚起し金利暴騰の氣配を示し米價亦軟弱にして八九圓臺なるが納稅期に入りて猶ほ多少の低落を免れざるべし

◎元山より

▲生牛輸出旺盛 國境各地に於ける生牛輸出は近來頗る盛況を極め十月中に於ける輸出數は一千五百十七頭價格四萬三千四百十六圓を計上するに至れり、是れ牛疫害後に於ける各地の通路完備したると一面には牛疫の終熄と共に其の需要を增加したるに基因するものにして九月に比し六十八頭を增加したるに過ぎざるも八月に比すれば一千三百二十一頭三萬六千五百八圓の激增を示せり、之等輸出牛の經由地は下汝坪、新阿山、慶源を主とし龍洞、訓戎、土里等之れに次ぎ直接消費地たる煙秋方面に直送せらるゝもの外は大抵牛市場として有名なる支那五家子に於て一旦取引せられ更に煙秋方面に輸送され居れるが同地方に於ては一般に鮮牛の輸入を歡迎し居れり

▲明太漁期近し 北鮮地方一帶は昨今ハタ〳〵の漁期に入りたるが同魚は去る十日前後より新浦、洪原、西湖津附近に著しく襲來し各郡に於て漁獲高甚だ多く西湖津の如きも大陵島近海に於て鮮人の副業として掬ひ網を以て一日四斗樽五六挺の漁獲を見つゝあり、既に去る十日以來西湖津のみにても約五百樽以上を算するに至り十一月下旬迄は最盛期なるが如し而して本漁期の終了を告ぐるや內地人はウレギ漁に從事し鮮人は明太漁に就業すべき準備中なるが明太魚は咸南の特產物にして年々百萬餘圓の產額を出し居る事とて本年は一層大仕掛の漁獲を見るに至るべし

▲出稼人の歸還 結氷期漸く切迫したる爲め浦鹽及び沿海洲方面に於ける勞働は次第に中止せらるゝに至りたれば同地方へ出稼ぎ居れる鮮人並に山東地方よりの出稼ぎ支那人の歸來は每便增加の趨勢を示し既に城津を中心とせる出稼鮮人は其半數の歸來を見たる由なるが一方支那人も昨今便船每に元山を通過して歸途に就くもの增加し來れり

▲連絡船と元山 日露連絡電信は最初元山、淸津經由の上京城府浦鹽間を連絡し居たるが近く同線は京浦間直通線增設を見るに至るべきを以て同線開通の曉は元山は之れを仲繼せず淸津のみを經由する筈(十一月廿四日)

正月餅賃搗 貸宅へ出張一叉は幣宅へ搗共一斗四十錢來月十日迄に御申込の方には乃木將軍金物像進呈同日以後申込の方は一斗五十錢像進呈せず 本町 乃木餅屋 ○電二七五二番へ

◎連絡船上陸客

廿五日午前入港高麗丸一二等客 一等(二名)佐々木伸太郎外人一名 二等(二十九名)內藤秀一郎、同龍十、同藤枝、同正久、中津久郎、同京子、山路善吉、龜山爲次郎、三原新三、同直子、野山爲次郎、同竹子、同孝枝、同千郎、川崎とよ、同太郎、小川德吉、津山丑太郎、中崎ため、同あや、三原雄二郎、花瑞芳、黃瑤瑞、岩崎まさ、安井力繼、高木恒太郎、白石政茂、林芳私 三等(百四十二名)

廿五日午後釜山入港壹岐丸一二等客 一等(一名)王睦三 二等(十二名)塚本耳羅、塚本靜子、塚本春江、和田吉藏、松本綾、鈴木虎雄、渡邊功、陣建周、大岳菊吉、多久島秀吉、村山留次郎、木村健太郎 三等(三十九名)

商況

東京株式特電

反動一服の裡にも底固く殊に鐘紡は買氣の再燃により跳騰せり

二十六日前場寄付	寄付	大引
日本郵船	一二〇、〇〇	一二〇、〇〇
日韓瓦斯	……	……
鐘淵紡績	一三五、五〇	一三五、五〇
新株上同	一〇三、二〇	一〇三、一〇
日本麥酒	……	……
東株第一	二〇一、〇〇	二〇〇、〇〇
東新株第一	……	……
東新株第二	一七三、九〇	一七三、五〇

債券現物特電

東京廿六日出來値段(前日との比較)	
東洋拓殖	六八、〇〇
日韓瓦斯	……
朝鮮銀行	一四〇、四〇
南滿鐵道	二八一、〇〇

公債直取引

東京廿六日出來値段(前日との比較)	
五分特別	九九、二〇
四分利	八二、〇〇
甲號五分	九八、二〇

深川在米特電

廿六日現物	
內地米	三一、九八
朝鮮米	六六、四九
臺灣米	七八、四六

東京期米特電

	前場	後場
廿五日十一月限	一四、六〇	……
寄付	一四、六七	……
高値	一五、九	……
安値	一四、六三	……
止め	……	……

大阪株式特電

種類	前場寄付	後場引値	前日比較
宇治川水電	三五〇	……	……
大阪電燈	[illegible]	……	[illegible]
京阪電鐵	[illegible]	……	[illegible]
神戸電鐵	[illegible]	……	[illegible]
阪神電鐵	[illegible]	……	[illegible]
南海鐵道	[illegible]	……	[illegible]
同 新株	[illegible]	……	[illegible]
東洋紡績	[illegible]	……	[illegible]
大阪商船	[illegible]	……	[illegible]
日本郵船	[illegible]	……	[illegible]
東京株式	[illegible]	……	[illegible]
大阪新株	[illegible]	……	[illegible]
大阪株式	[illegible]	……	[illegible]

大阪三品特電

廿五日後場	寄付	大引
十一月限	一一七、五〇	一一七、七〇
十二月限	一一七、五〇	一一七、四〇
一月限	一一八、〇〇	一一八、三〇
二月限	一一九、六〇	一一九、九〇
三月限	一二〇、〇〇	一二〇、九〇
四月限	一二二、五〇	一二二、六〇

大阪期米特電

▲二十五日前場	
當限寄付	一四、〇三
中限寄付	一四、六〇
先限寄付	一四、六七
止め	……

下關期米特電

▲二十六日前場	當限	中限	先限
寄付	三一、六五	三三、八〇	四四、三五
高値	……	三三、八〇	四四、三二
安値	……	三三、六〇	四四、三三
止め	……	……	……

雜報

位二十錢上げ 十錢の範圍を擴む 制定は格標準米の二十錢上げ一圓四十錢を一圓三十錢を比し二十錢即ち從前に比し一

◎生糸の新高値 近頃稀有の活況を演じ相場奔騰に上一格の生糸市場は昨日遂に二千百圓見當と爲したる由にて先づ高値を持續し二千三百圓を呼ぶ有樣となりしが向後の形勢は歐洲の入荷に依り確たる見透しを下し難く手堅く見る者も多かりし…

輸出向の氣配益々 …二十三日は歐洲向は早くも米國向の入荷到達なき傳へらるも午後米國の入荷到着は…

◎絹糸市場好況 糸の同業者絹の二十錢安を入れて品は前日は依然として二十錢安に更に三錢見上を唱へたれども何分細工品等は今後も益々其の好況を持續するものならん

談頻々と輻輳し 太物は引續 き持合なるも昨日の弄 形勢を盛り返し細物類の太物類も…

五十錢方上進 前日に比し五十錢方上進し一圓三十五錢乃至一圓二十錢方上進し當限は百七圓七十五錢四限は百二十二圓六十五錢を示せりと

◎粉米移出狀況 (米粉)大阪名古屋は內地米穀の立直りと共に大阪名古屋四日市方面より續々買物あり今日迄に既に相應取引の高も上りたるが昨今にては大阪不引合となり名古屋叉四日市から同地との間には今尙引續き漸くにて同地との間に若干の取引を見たり

十一圓三十錢處以 て商談出來しつゝあり

◎移出と船便不足 四日市に出合 白米移出注文は今尙絕えざるも何分京仁間の貿易業者及び精米所にて引受けたる前約物の充滿せる爲め船腹の不足とにより新期米なれば特に十日以後ならざれば積出し能はざる由にて折角の商談も殆ど謝絕しつゝある有樣なり

段に於ては大阪神著の十 三圓三四十錢迄買進み居るより引合ひ居るも前記の事情にて

顧客本位正確迅速 仁川米豆取引所仲買人 サンビキ 仲買店 電話四三三 五二番

◎餅漸次回復 今絕えずに下落せしも其の後は昨今にては漸く回復し一時は不買と在荷の多かりし爲め出盛相場の三圓五十錢より七十錢迄暴落せしも後直安に買氣を喚び漸次引返して昨今にては一圓七十錢處を以て成行つゝ動きつゝあり

◎樺太餅初入荷 新餅は本年初荷として三十個內外移入ありしが品質不良の爲め荷主は無論受荷側の豫想値六圓にも届かず結局買人なしの持餘みさいふ姿なり

◎米餅高模樣 米餅は……旬第一回の補入ある筈なるが本年は……前年に比し多……

仁川米豆取引所仲買人 三巴仲買店 仁川海岸町二丁目 電話長三一二三……

◎石油界の其後 內地に於ける其後石油界は各地共に蕃類の氣直りたる關係より燈油の人氣は次第に回復を告げ出荷は漸次增加を呈しつゝありしが昨今は重要旺盛の時期に入りたるも既に相當に行渡りたると運航勵行も或程度迄其功を奏したる塲合もあり並に各材料を買盛し然らざれば手持品の賣退を試み新歲は今後何等か新材料の湧出を待つか末前の成行を待て再び買附けんかと氣迷ひ居る向もありて大勢は稍買見送りの姿なり

度は依然として强氣を持 續し一向引下ぐる模樣なし之れを要するに石油市況は當分持合を以て橫這す事となる可く併し月更に於て外油の意向次第に多少の興味ある商狀を示現するに至るやも知る可からざるが如し

◎綿糸市場好況

談頻々と輻輳し細物類の商 况くなり…

市場更に買氣の橫溢 活況を呈せる相場は終に上一格更に五十圓方高値を呈し千百五十圓が實現し新規五萬斤の手合行はるゝに至りたるが是れと共に塲違物も盛に出來大體に高値を以て是亦三萬斤餘りの商出來したるも尙買手取入れ不足の觀みありて市場更に買氣の橫溢せるを推せしめたり

下關相場

◎朝鮮白米も底强し 其後別に相場の昇進を見るに至らずと雖も何分內地米の手堅ぎ商狀なると產地も依然として安からぬ等各米主の氣張り居る爲め市況底強く之れが準々の出來値は左の通りにて其後の輸入は百九十五叺のみ

◎小豆は矢張强まず 前報後北海產二百俵朝鮮牛小豆百叺安東縣花小豆三百ヶ十叺等の輸入ありて即に賣れ行きの捗々しからぬ爲め氣勢昂らず然れども過日來米價の活躍と共に人氣活氣を呈するに至りたる結果自然手持筋の安くは手放さざるに依り市況强まず

▲大豆は依然手堅し 其後俵節物四百十二叺太田物四百二十叺等の輸入ありしが過日來米價の活躍を演じたるに連れ一般の人氣景氣付きたるのみならず產地の如きも依然として安からぬ情報を傳へ居る節各商主の賣り腰强きに依り相變らず市況手堅くこれが鬼々の出來値は左の通りなり

▲朝鮮一等白米(當用)	十三圓七十錢
▲同 一等白(當用)	十三圓六十錢
▲同 二等白米(當用)	十三圓四五十錢
▲同	十三圓十錢
▲太田大豆	八圓八十錢
▲俵節大豆	八圓五十錢
▲同	八圓六十錢
▲永洞大豆	八圓八十錢
▲同	八圓八十五錢
▲宣川大豆	八圓七十錢
▲同	八圓七十五錢
▲長湍大豆	九圓
▲同上品	九圓二十錢

京城正米

明米は漸く浮足となりたるも內地正米は依然强含みつゝありて新期追駈注文續々入込み 圖にして新穀の出盛りを圖に取りて冷靜に構へ居るの狀況なり行かず賣人も此處四圓の狀況を眺め益々腰强く出ずるより必需口は知らず々々の裏に買上げ行くの有樣にて昨午後以來氣配も更に一二十錢高となり朝來の買物は改良上米十圓五錢次品九圓七十錢並品九圓三十五錢處なり

京城雜穀

正米界の活況に連れて一般雜穀も漸々人氣を引立て昨今相場買人も現は其れつゝある模樣なり殊に荏子は油高によるる思惑買のある上大豆が出端とて相場し誠切上伸を告げ一時六圓臺の物が此處襲の七圓見當を唱ふる處に至れり小豆叉頗る好人氣にて之亦安値の五圓臺より徐々昂騰し今や七圓內外を唱へられつゝあり其他雜穀は上物十一圓五十錢那物十四圓八十錢小麥上物は七圓三四十錢處なり

田中金六商店 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 電話……

南大門の廻米

天安白米 二六叺	南浦白米 三六四叺
小井里白 六四叺	栗 砂 糖 五〇叺
鳥致院 粗一 七一叺	江 粗五〇叺
天安白米 七八叺	平 南 地 粗 一六一叺
金付白米 一八叺	鳥致院 粗 一五六叺
鐵原白米 二一叺	平 澤 粗 一七五叺

仁川現物市場

籾の入荷約六七百叺川來值は本匯物五圓黃海道物四圓六十錢にて氣配は二三十錢高なり

仁川期米

▲二十六日前場 十七錢安の入 前場寄付一十四圓十錢と當中限は昨日より四錢高と共に七錢安にて大阪安を受けたるも八十錢と下げ寄付各當限は全く前日より十錢方安く是を見越して買物漸次下值に多く賣物に壓されし傾き二錢方安く持合ふたるは大阪安に一時七錢見當に下げたが三巴其他の後物に戾りは依然下押氣味の模樣あり

▲二十六日前場 先限(一)九圓八十四錢…
(以下相場表 [illegible])

仁川米豆取引所

廿六日の一月限

前場	
寄付	九圓八十四錢
高値	九圓八十二錢
安値	九圓八十七錢
止め	九圓八十二錢
出來高	一萬八百石

平均値段	
一節	九圓八十五錢
二節	九圓八十五錢
三節	九圓八十四錢
四節	九圓八十四錢
五節	九圓八十二錢
取組高	五千四百石
賣買	二萬五百石
十一月限	
十二月限	三萬七千石

吉行賣買店 海岸町 電話長九一二 四二二 三〇九 電略『ユキ』又は『コ』

市場零聞

▲反動下押乎 昨後場の反動と今前場の大阪安と伴つて九圓八十四錢と寄付たるが之來して反動なるか否や今後に徵するの外なきも正米事情は依然として續々注文に接しつゝあるより安値は突込みて買入なく殊に昨日の十圓臺に高値の現出せしより察するに今後更に暴騰を促す前提にあらざるか現に市場は此迄一般氣迷ひの姿也

仁川米豆取引所仲買人 今村覺次郎 仁川海岸町三丁目 電話長三三七番 三六八番 電略イ又「ハイマ」

▲米價騰貴の原因 米價騰貴の直接原因は收穫豫想高が僅かの結果五千二百萬石內外に減少せる事明かとなり農家の新穀賣出し亦豫想に反し極めて少量にして然も其收穫の事を探らんとしたる者も多少の疑を以て極度に迄買下げ輸入高を知りたる爲めにして其の確實なる事實の證明に依りて現に又間接の原因は生絲高株式商等四圓の市況に影響せられて騰貴を强ちれたる結果に外ならず實際定期市場は正米市場に比し近年絕えず三十錢內外の安値を唱へ底意の强味ある事を示しつゝあり畢は目下買筋は悉く有力なる人士にして實際引渡米を買取るが爲めに買進める者多きを以て之を知り得べし斯くて今後も益す騰貴の勢ひを助成すべく來年七八月頃に至らば二十圓內外に達すべしと論ずる者あり

▲輸出米と酒米 輸出米は歐洲への內在米一萬石は歐洲へ向け輸出 に政府が調節の爲めに買上げた關門の在米…一萬石は歐洲へ向け輸出の爲め關門三日前より著々準備を爲しつゝあるが叉全國の酒造家多くが安値に買損れたるは確かであるといひ前途高の一材料に數へられて居る

北濱だより

▲宇治電買覘はる 宇治電の發展は著るしきもので昨年の十月末現在の工場動力川の送電馬力數は一萬二千三百四十六馬力であつたのであるが本年の九月末には一萬九千六百七十五馬力に增加して居るのであるが今後も尙ほ一般の商工業の景氣回復と共に動力需用の申込みが益々あるのだから從つて營業成績は期して好況を繼續するに至るものなるから…其の新規に設計したる水力の增加を圖ればそれだけにでも何等かの…來以上…となる…前途すべき…あらう…で、叉ひつゝあれば同株は漸次に騰貴するであらうと想はれるのである

金牌受領 上酒壹升に付四拾錢 清酒 美林 燒酎 釀造元 京城櫻井町一丁目 中井酒造場 電話……

醫化學器械一式 藥種賣藥卸商 Ⓚ 仁川本町 北島藥店 電話三二四・……
京城本町 永樂町角 北島藥店支店 電話……

建築用浪板 平板 トタン 並 各種ストーブ 附屬器具 煙筒 暖爐 取附 暖房 掃除 工事 請負 賣 併
京城黃金町二丁目(電話二五四番) 鍼力商 田中吉太郎 御用の節は御一報次第迅速に取計可申候

ヒゲタ醬油 銚子港 田中玄蕃釀造
代理店 櫻正宗 發賣元 京城明治町一丁目 山邑京城支店 電話八……

內科 小兒科 入院隨意 京城明治町(元蒸溜學校跡) 中島醫院 院長 中島貞信 電話三七八番

朝鮮煙草株式會社
兩切煙草 パラダイス 十四本入 金貳錢
兩切煙草 コスモス 二十本入 金貳錢
電話……

資本金 壹百萬圓 政府貸下金 三十二萬九千二百圓 農工債券發行高 百參拾萬圓
銀行長 白完爀 支配人 遠山熙
株式會社 漢湖農工銀行 京城南大門通二丁目 電話 五二四番 五五七番 五五二番
支店(開城、春川、江景、太田、公州、鐵原、淸州、忠州、論山)
當銀行は普通銀行業務も確實親切に御取扱申候

越後大評定

第五十五席　早川貞水口演

城下一般の誤解

從『然うだらう』三『其三河屋の子分で御坐いますから、何事だつて大公儀の事なら分ります』從『そりや然うだらうね』三『私が江戸を出發ます前、何でも越前福井へ御上使が來る譯なんです』從『御上使……何だと云つて』三『そりや貴方さん、越前樣大阪の戰で大功があつたんだが、何にも御貰ひなさらぬ、其へ以て來て、此度の五重の天守を御拵へになる、大層御金が掛かるだらう、それに就て何だか知られえが、百萬石にしてやると云ふ御相談もあつたさうだが、戰の後で物入りが多いから、十萬石御加増仰せ付けられると云ふんで、近々御上使が立つと云ふ話であつたが、既う來たんでせう』從『イヤ未だ其樣な御沙汰はねえ』三『ヘエー其樣な譯はねえ筈だがね、其ぢや何事か大公儀の御都合でもあるのか知らぬ、何でも十萬石御加増になつて御物入りの足前にして上げるんだと云ふんで、公儀の方ぢや越前家を何とも思つちや御居でなさらぬ』從『ヘエー、其事はお前本統かえ』三『本統ですとも、其樣こと私が嘘言ついたつて、別に儲かる譯でねえ、第一公儀の事なんて、嘘言を吐いて濟むものでねえ、私はお前さん、もう嘘言と坊主の頭は結つたことのねえ人間で……』從『成程大きに道理だ、本統に其ぢや十萬石の御加増になつちや大變なものだ』三『エ』從『尤も其位ゐなことさア將軍樣しても宜いんだ、八百萬石から十萬石ぐれえ削つたつて、何處からでも湧き出して來るからね』三『然うですとも、加之に越前福井は、將軍樣の御兄弟、彼處へ五重の天守が無くちやならぬ、斯う云ふので、既う公儀でも御承知なんだつて、夫等から下々で噂して居ります、江戸に居て御屋敷へ出入りして居る者は、精しい事を知つて居ませう、尾張の名古屋の御城に、金の鯱があるのに越前家に五重の天守がないと云ふ譯がない』從『フムー』三『此地へ來たらそんな事は皆御承知だらうと思つて居たら、まだ親方はじめ御存知ないと云ふのは、驚いた譯で』從『然うかね、其事を聞いて安心した』三『マア安心して御居でなさるが宜い、イヤ親方御喧う御坐いました、又明日』從『マア何だ飯など毎日來て食つた方が宜い』三『有り難う御坐います』

飴屋さん懇意になつて、翌日も來て喋舌る、終ひには店を開けぬ前から髪床へ入り、火鉢の脇へ陣取つて、煙草を吸ひながら、ベラ〳〵喋舌つて居る、來る客が之を聞いて安心する、漸次評判に相成つて、終に御城中から御城下へ出て居る隠し目付が之を聞いて、殿樣へ內々申上げる、家老から老臣が之を聞いて『さては大公儀ではそれ程に思召さぬことであるか知らん』と、今までの心配はガラリ變つて大安心となりました。

京城明治町木村屋パンを知らぬ方ありや
(京龍市內食パン其他配達電話二八七〇番)

十一月廿八日九星
本命 一白 北 鑑先 吉
暗劍 四十 月廿二 日 癸 亥

▲一白●●疑迎〳〵する事有り 新事見合西方は吉 事は吉 一切の掛事せぬがよし▲三碧●●受込よき旅行人門名弘出現 求職嫁娶入金件 石油井を掘る等皆吉▲四綠●●銀和數川轉居 ▲二黑●●油斷のならぬ事有り 新事手控宜し▲五黃●●陸味至極の事有り 新事手控宜し▲六白●●萬事數〻轉居 事は吉 紹介餘印等を禁ず ▲七赤●●開業入門名弘出現 求職金談婚禮遊技他を設ける等吉 女子の奥床敷心を知られて立身を爲す頗る撮ふべき日也▲八白●●不得要領の事有り 新事控へ事は吉 婦人さ約束を忌む▲九紫●●穿鑿のたらぬ事有り 新事手控へ事は吉 貸借の口入等せぬがよし

演藝案內

大正館（櫻井町 電話八七三番）
十一月廿六日よりの三大寫眞 ○實寫ゴーモン畫報○喜劇ビル君民狀報告○滑稽 下稽古▲日活會社向島撮影所の新傑作○新派悲劇 母の罪 全三卷▲佛國パテー會社傑作○冒險奇怪 女曲藝師 全三卷 六千尺 數百の猛獸及び毒蛇を使ひ人類の膽を奪ふ [illegible]▲尾上松之助一座の大車輪○舊劇 岡山騷動 全三卷五十三場 [illegible]

壽館（町 電一〇五〇）
十一月廿六日より毎日正六時開演 七福會新派仁輪加團一行
一番目 嫁選ひ（住吉公園 二階長屋）
二番目 記念のハンカチ（新潟温泉場 同海岸）
三番目 蝙娘（名古屋七つ寺境內 金山遊十郎邸）
四番目 妬かずむこ（宅同西口 同師井上）
一座員の大車輪さ藝當の大勉強にて十分の皆樣方にお腹の宿がへやら命の洗濯なして頂くを主旨として入場料の如きも十錢均一さして中々いらず お早い勝ち特別大勉強を致して居ります

本日よりの大正館
舊劇 岡山騷動　忠臣水野三郎兵衞の活躍
新派活悲劇 母の罪
冒險奇談 女曲藝師

佐久良座（龍山）
女流浪界の大關女雲右衞門一行二十五日初日開演毎日午後六時より開場 賑々敷く御來場願上候

壽座（本町 電話五七八）
十一月二十四日より ○日活會社 [illegible]

●講談落語（娛樂世界十二月號）表紙口繪寫眞 [illegible]
○本道の名勝地と『婦人世界』 東京實業之日本社發行『婦人世界』にて目下募集中の日本新三景は此度第三回の投票數を發表したるが本道內の名勝地九〇八二金剛山は [illegible]

御成座（町 電話二九一）
[illegible] 新派悲劇 [illegible] 『亂れ髪』全二十八場 [illegible]

黃金館（黃金町四丁目 電話二六三七）
十一月二十二日全部差替 ●歐洲大戰亂 [illegible] 事大活劇喇叭太郎 [illegible]

龍光館（龍山停車場前 電話(龍山)四一番）
[illegible] 本日より新派悲劇親心 [illegible]

國寶的大辭典・大禮記念の一隨

大日本國語辭典

大國家には大辭典あり

東京帝國大學文科大學長 文學博士 上田萬年先生
東京高等師範教授 松井簡治先生 著

第一卷發行 四六倍判背革角革千二百五十頁挿畫三百五十 定價六圓五拾錢 全部四卷 約五千頁 語數廿二萬
萬部限特價提供 特價金五圓(二圓五拾錢宛二回拂込差支なし) 送料內地廿四錢臺、樺四十五錢鮮支五十五錢

▼十有五年苦心の產物

本書編纂の事は夙に學者間に喧傳して深大なる信頼と同情と希望とを以て其成功を期待せられしが、刊行數日、學界及び有らゆる知識階級注目の焦點となり、尋て感稱嘆美の中心となり、全國學校、官衙、會社、個人、團體を始め、海外植民地等よりの注文大潮の寄するが如く、頓に出版界の沈靜を破りて最高新レコードを作れり、今や出版者は裝釘發送に全力を傾注して寸陰尚足らざるの盛況に在り

文學博士 芳賀矢一先生序文の一節

學者の仕事はじみである。目覺しく世人を驚かすやうなことは無い。二君が拮据十餘年の編纂事業も、靜かな一室に靜かに行はれたのである。けれども一たび學者の閑事業たることを承認せずには居られぬ。又編纂者の決心と根氣とを見上げるものは、何人も其難事業では無くして、實は國家の大事業であつたことに考へ到らねばならぬ。さうしてそれが決して學者の閑事業では無くして、實は國家的大事業であつたことに考へ到らねばならぬ。國民精神の一等國とは言はれぬ。教育の根柢となる國語の調査整理が現今に緊急であることはいふまでもない。國家の室に入つて、山成す材料を見上げるものは、何人も其難事業では無くして[illegible]……家は軍備ばかり進んでも一等國とは言はれぬ。教育の根柢となる國語の調査整理が現今に緊急であることは……根本であるに於て、學者の生命があり、學者の生命が之と同時に發達の意義があるのである。十年以前に比べて、研究が賴らねばならぬ。十餘年後の今日、こゝに一大戰艦にも增加した國語の語彙を祝するの人は、之を嘆美しなければならぬ。國民に採りての立派な一大產物が國家の誇でもある。此一大產物が、叉堅忍不拔な精神を有する大きな武器である。べきを支配する二君の手によつて成就せられた事は、國語界に於ても亦無意味な十年では無かつたのである。

內容見本呈進(往復葉書申込次第)

▼編纂費實に拾餘萬圓

發行所 東京神田 冨山房(振替五〇一番)
東京日本橋 金港堂(振替八八一五番)
賣捌所 全國書林

けさ **今朝**…消化と毒けし 仁丹 **召上りましたか**
金言 事業は人世の鹽なり(米國諺俚)
仁丹召上つてイッモ爽快!

冬メリヤス
シャツ一枚に付(但しズボン下同値)
第一號 同 一圓三十五錢
第二號 同 一圓十五錢
第三號 同 一圓也
第四號 八十八錢

東京 塚谷出張店
京城本町
振替口座二九三番 電話一三六番

●急告
◉淋病專門藥唯一錠 急性慢性淋病及び膀胱炎しよかち等の淋毒より來る病症は淋菌を治滅すると共に安全に體內より洗滌すべき藥によりて其目的を達す現今多くの淋病藥中には胃腸障害其他の副作用を起さざる此兩特效を併有する淋病專門藥は唯一錠なくして藥効なき方は速に此良藥によりて不安を去られよ 四十五錠入八十錢 九十錠入一圓五十錢 百八十錠入三圓
◉全國有名藥店にて販賣せり
淋病養生法 無代進呈 送料四錢
發賣元 中西藥局 東京市小石川區表町 振替東京一五〇〇番

米利仲買店

會席御料理
共進會開催中は特に御晝食其他御好次第御手輕に調理可仕候
水族館ゟ東へ一ッ目角
醉月 杉浦あさ 電話一三九番

日本郵船 仁川出帆
○大連秦皇島行 高砂丸 十一月十八日 正午出帆
○三河丸 大連、太沽行 十一月十一日 午前六時出帆
相模丸 十一月三十日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番 堀回漕部

朝鮮郵船 出帆
全羅丸 十一月 日
京畿丸 十二月四日
黃海丸 十二月八日
成鏡丸 十一月廿八日 釜山發
全羅丸、京畿丸、黃海丸、成鏡丸 門司より釜山各港寄港雄基まで
穩城丸 十一月廿九日
昌平丸 十二月 三日
鏡城丸 十一月 日 元山發
元山より各港經由雄基行
平壤丸 十一月廿七日
忠清丸 十二月五日 元山發
雄基、清津、浦盬行復航釜山經由門司
永興丸 北久味、元山、浦行 毎月廿八回 元山發
又は長崎延長
嘉島丸 十一月廿七日 釜山發 甘浦、九龍浦、浦項各港寄港蔚山行
江陵丸 毎日 (釜山 浦項)發
長生浦、方魚津寄港
三浦丸 十一月廿九日 釜山發 長承浦、統營、巨文島、濟州島各港行
海州丸 巨濟丸 毎 釜山發
統營丸 慶尚丸 日 (三日目)一回木浦行
各港經由釜山行
順天丸 三日目毎 木浦發
咸興丸 十一月廿八日 木浦發
一、各港經由順天行復航木浦より釜山行に連絡
公州丸 十二月一日 木浦發
一、南鮮島海列島行(月三回)
公州丸 十一月廿六日 木浦發
一、各港經由濟州島行(月三回)
宗信丸 十一月廿六日 仁川發
海州仙各港經由、鎭南浦行
江原丸 十一月 日 仁川發
芝罘、大連、青島行
飛水丸 十一月廿七日
晋州丸 十二月一日 仁川發
各港經由木浦行
全南丸 毎日午前 仁川發
全陽丸 江華島、海州島、楊州行
支店 京城南大門通、本店 電話長一九五三番三三番
京城代理店 松原運送店

大阪商船 仁川出帆
○中國四國沿岸各港行一割引を以て御諸切符發賣仕候
○外航所屆航路(清津航路を除く)御連絡御切符の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候
×○宮島丸 群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 十二月四日 午後出帆
△×漢城丸 十一月三十日 午後五時
温州丸 十一月七日 午後出帆
×○木浦、釜山、長崎行(▲は長崎線の補に寄港)
安東丸 十二月九日 午後二時
▲天智丸 十二月四日 午後出帆
××○鎭南浦、大連行
安東丸 十一月五日 午後二時
天智丸 十一月廿九日 午後出帆
○○木浦、神戸、大阪行
潮州丸 十一月廿八日 午後五時
○△群山、釜山、商濱行
千珠丸 十一月廿七日 午後四時
チヨイサン丸 十二月八日 午後出帆
△大連直行
千珠丸 十二月十五日 正午出帆
チヨイサン丸 十二月二日
○清津、浦潮行(元山出帆)
▲は城津西湖津に寄港清津不寄港
久丸 十一月廿八日 午後三時
宮丸 十二月七日 出帆
▲地大智丸 十二月十四日
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
基隆丸 十二月四日 午前十時
新高丸 十二月十七日 出帆
御注意
○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道各驛との聯絡運賃
○該船便乘客は本船出帆前約一時間前御乘込ある可く候
○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り
仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二番 二一〇番 五一〇番
京城切符發賣所 內國通運會社支店 電話七八〇番

尼崎汽船 仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 十一月廿九日 午後四時出帆
若代丸 十一月二日 午後四時出帆
神代丸 十二月二日 午後四時出帆
大有丸 十二月五日 午後四時出帆
○第二太湖丸 群山、大阪行
土海丸 十二月 日 午後四時出帆
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 新杉回漕部

共同汽船 仁川出帆
阿波國共同汽船株式會社
第一共同丸 芝罘、大連行 十一月廿六日 午後二時入
十一月廿八日 前九時出
朝鮮航路要 大連にて青島行定期船に接續連絡貨物取扱可仕候
一第二阪鶴丸 城津、清津、浦盬行(元山出帆) 十一月 日 午後九時出港
西湖津沿岸各港を經て雄基行(元山出帆)
第三共同丸 十二月一日 前八時
十一月 日 出帆
本町一丁目(電話一〇八番) 山下回漕部
仁川代理店 田口回漕部
元山代理店 (電話二四七番)
京城取次店 河村運送店

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行
小倉丸 十二月十四日 午後五時出帆
○元山、城津、浦盬行
小倉丸 十二月二日 午後十時出帆
○門司、神戸、大阪行
立神丸 十一月卅日 午後五時出帆
○元山、清津、浦盬行
立神丸 十二月九日 午後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行
第三琴平丸 十二月一日 午後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三琴平丸 十一月 日 午後六時出帆
○佐須奈、嚴原、郷ノ浦、勝本、博多行
天興丸 毎月二日九日十六日廿三日 午後十時出帆
大池回漕部

京城日報　第三版

二十七日朝刊（第二千九百五十五號）

本紙定價　一部金三錢五厘　一ヶ月金八十五錢　郵送料一ヶ月金二十錢
廣告料　五號活字一行金…
發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　太田政太郎
發行所　京城日報社
電話　編輯局…　營業局…
振替貯金口座京城三〇〇番

總督府明年度豫算
四年度實行豫算との對照

大正五年度朝鮮總督府各特別會計豫算は本紙夕刊既報の如し、今本豫算の各科目を前年度實行豫算と對比し其増減を見るに左の如し

歲入

（▲印は減少の分無印は何れも増加の分とす）

科目	五年度豫定額	前年度實行豫算額との比較増減
▲經常部		
朝鮮歲入	四一,五六一,六二六	一,七六四,八九七
租稅	一六,六六四,九二八	▲四二六,一二八
印紙收入	二,四〇二,七七七	六六六,八六四
專賣收入	一,五二〇,八七七	▲五七六
官業及官有財産收入	二〇,〇九八,三九五	一,四八二,六二八
雜收入	八八四,六九九	五一,一九九
▲臨時部		
事業費資金借入金受入	一〇,五八五,〇〇〇	一,九五〇,六七三
補充金	七,〇〇〇,〇〇〇	▲一,〇〇〇,〇〇〇
前年度繰入金	四〇二,五二一	▲一七四六,九三〇
臨時部計	一七,九八七,五二一	▲七九六,二五七
歲入合計	五九,五四九,一四七	九六八,六四〇

歲出

科目	五年度豫定額	前年度實行豫算との比較増減
▲經常部		
李王家歲費	一,五〇〇,〇〇〇	〇
總督府	三,三〇〇,六六三	六〇二,二九四
裁判及監獄費	二,七〇四,三九九	一六六,二四七
警務費	三,三一四,四七一	▲二,六〇四
地方廳	四,二三二,九〇一	一〇七,四〇六
諸學校	四七七,九六八	五一,六七七
稅關	九九九,五七三	二,九〇〇
勸業模範場	二一一,三〇四	一五,八四三
中央試驗所	一一三,四五一	一〇,〇〇九
平壤鑛業所	七六五,七七一	一〇,三〇二
營林廠	一,二〇四,九〇四	一,二〇四,九〇四
遞信費	三,七七五,八四三	九〇,六七五
鐵道作業費	七,六九〇,四五五	二八,一二四
修繕費	三二〇,〇〇〇	▲一三
諸支出金	三六三,〇一五	一四,三三五
一般會計繰入金	五,〇一一,六〇八	一,二九九,七五四
朝鮮醫院及濟生院支出金	四三〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇
豫備金	一,〇〇〇,〇〇〇	〇
經常部計	三七,〇七三,一五五	三六〇,〇五四
▲臨時部		
勸業費	二三一,九九〇	五九,九六八
憲兵補助員費	一,一〇四,四九九	〇
朝鮮部隊費	一一七,九七三	▲七,〇〇四
臨時土地調査費	三,七九五,一一四	一八八,三六一
補助費	三,〇五〇,六〇八	▲一七一,三三〇
數官補助	九七七,一二三	六六八,三九八
航路補助	五六八,二一六	五九五,三二四
衞生補助	九,一〇〇	〇
土木費補助	六九,五〇〇	▲一〇二,五〇〇
地方土木費補助	三三七,〇〇〇	三七,〇〇〇
平壤防水排水及道路工事費補助	三五,〇〇〇	▲三,〇〇〇
大邱水道工事費補助	八〇,〇〇〇	〇
海州水道工事費補助	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
清津漁港工事費補助	三五,〇〇〇	〇
漁船避難場改修補助	二,五〇〇	〇
灌漑設備改良費補助	一四〇,〇〇〇	〇
元山水道工事費補助	〇	▲六〇,〇〇〇
木浦水道工事費補助	〇	▲六〇,五〇〇
晉州水道工事費補助	〇	▲二〇,〇〇〇
勸業補助	六九四,八二八	▲二四,二二〇
地方産業補助	三三五,九六六	一三,五〇〇
棉作補助	四三,六三二	〇
地方金融組合補助	三二五,二〇〇	▲二一,八〇〇
國有地小作人組合補助	一〇,〇〇〇	▲三五,〇〇〇
古蹟保存費補助	一〇,〇〇〇	〇
免囚保護事業補助	五,〇〇〇	〇
輕便鐵道補助	八一,〇三二	七,七〇八
木浦水道事業債償却補助	八二,八四〇	八六,八四〇
東洋拓殖株式會社補助	〇	▲三〇〇,〇〇〇
臨時出資金	一四,〇〇〇	〇
營繕費	一,〇八四,〇八七	▲三四,五四九
總督府廳舍新營費	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
新營及設備費	四四四,〇八七	▲三三九,五四九
電信電話營繕費	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
航路標識營繕費	四〇,〇〇〇	▲一〇,〇〇〇
京城郵便局新營費	〇	▲一〇,〇〇〇
朝鮮神社及總督府廳舍新營準備費	〇	▲一五,〇〇〇
土木費	三,二〇一,五三三	▲二四,五三三
道路修築費	一,二五〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
海關工事費	一,一二五,〇〇〇	一七〇,六七七
仁川港碎岩費	九九,三六九	▲三一,〇〇〇
鎭海市街經營費	二六,〇〇〇	▲三七,〇〇〇
京城市區改正費	三〇〇,〇〇〇	▲三八,〇〇〇
港津維持及設備費	一〇一,一四四	▲二九,七六〇
修繕費	〇	〇
水道改修及擴張工事費	〇	▲三七,四二五
新義州江岸及市街整理費	〇	▲一一〇,〇〇〇
鐵道建設及改良費	八,二九〇,〇〇〇	八一〇,〇〇〇
平壤鑛業所	二九,六六〇	〇
採鑛費	一二〇,三二〇	六四,五二一
調查費	五二,一三八	一,一四八
財源調査費	五六,一二〇	▲一六,九九九
土木事業調查費	六八,一八八	〇
官有財産調査費	一五八,七七〇	一四,二〇八
臨床調査費	一三,〇六九	一三,〇二五
林野調査費	二一,九七七	▲三一,九七七
古蹟調査費	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
驛屯土調査費	四〇,〇〇〇	〇
堤堰洑改良調査費	九八,六二六	▲一,四〇一
河水及水利調査費	〇	▲三,四九三
國有未墾地調査費	二〇,〇〇〇	三,三一六
臨時外國行諸費	四六,八九一	三一,八八〇
地稅名寄帳整理費	三六一,〇〇〇	三六一,〇〇〇
釜山鑿平地買收費	[illegible]	[illegible]
平壤鑛業所臨時採炭費	四〇六,三二八	七二,九九八
始政五年紀念共進會費	〇	▲三六六,三三〇
大禮施設費	〇	▲三一,〇〇〇
臨時部計	二二,四七五,九九二	六六六,六九九
歲出合計	五九,五四九,一四七	一,〇二八,七五三

朝鮮鐵道用品資金

科目	五年度豫定額	前年度實行豫算額との比較増減
▲歲入		
朝鮮鐵道用品收入	五,五五八,二一七	三二四,〇八三
用品收入	五,五二二,三九九	二三三,七六六
雜收入	三五,八一八	三一七
▲歲出		
朝鮮鐵道用品費	五,五五八,二一七	二三二,一九一
俸給及諸給	四四,一七〇	四八〇
用品及び工作費	五,五一三,〇四六	二三一,七一一

朝鮮醫院及濟生院

科目	五年度豫定額	前年度實行豫算額との比較増減
▲歲入經常部		
朝鮮醫院及濟生院	九九二,九二六	八二,九二八
政府支出金受入	四三〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇
維持資金收入	一四二,八〇〇	一,一九八
醫院收入	三九八,八八八	▲二六,二八一
雜收入	一,二〇〇	〇
▲歲入臨時部		
寄附金	一〇,〇〇〇	〇
特別資金利子受入	一〇,〇〇〇	▲二,八〇〇
歲入臨時部計	二四,六六四	▲二,八〇〇
歲入合計	一,〇一七,五九〇	八〇,一二八
▲歲出經常部		
朝鮮醫院及濟生院	一,〇一六,五九〇	九六,三〇七
豫備金	一一,〇〇〇	〇
歲出經常部計	一,〇二七,五九〇	九六,三〇七
維持資金收入資金部歲入	一三,五〇〇	二,一七八
維持資金支出資金部歲出	二三三,三三三	九四,三七

朝鮮銀行の使命（四）
正金銀行をして當らしむる可否

滿洲に新銀行を特設することが適當の策にあらずとせば、然らば橫濱正金銀行をして當らしむるの可否如何。

正金銀行は從來滿洲に於て銀券を發行し、近來更に金券を發行するに至り、又滿洲に於て國庫金の取扱をなす等、中央銀行たるの職務に當りつゝあり。然れども本來同行は其の性質上純然たる爲替銀行なり。即ち外國爲替の賣買を以て其の主たる業務とす。從つて同行が平素最も其の精力を傾注する所は內外爲替の調節にあり。其の關する所世界的にして滿洲の如き天地に跼蹐して特殊の活動を爲さんとするが如きは固より其の目的とする所にあらざるなり。正金銀行が滿蒙の開發及び同方面に於ける邦人の勢力扶植と云ふが如き事業に對して、常に植民地當然の要求に適應するの處置を執る能はざるは、蓋し自然の數たるのみ。現在に於ても、特種貸出の制度を設けて、僅かに之が缺點を補へりと雖も、本來植民地の實情を考慮し、迅速に且つ同情を以て其の取扱を爲すの餘裕なきを以て、右の貸出も往々にして一般不平の標的となり居れり。吾人は正金銀行の眞意を諒とする丈けに斯くの如き事あるを一層遺憾とす。

思ふに、滿洲に於ける正金銀行の當局者は、其の四圍の狀況に鑑み、漸次に殖民地に於ける放資の狀況と母國に於ける其れとは、大に其趣を異にすべきものあるを了解するに至るべきも、遠く殖民地を離れ、而して對外爲替の調節に沒頭しつゝある本店當局者が、殖民銀行の幹部の爲す如く殖民地に於ける特種業務を熱誠を以て處理するに至るべしとは吾人の思惟し能はざる所なり。之れ正金銀行の性質上到底免る能はざる當然の結果たるを如何せむ。

夫れ正金銀行には上述の如く、別に重要なる任務のあるあり、而して同行が果して是等の任務を完全に遂行するを得たりやと云ふに、未だ必すしも然りと稱し難きを遺憾とす。例へば同行は、歐洲大陸に於ては僅かに佛國里昂に一支店を有するに過ぎず。從て同行は戰後獨逸及び露國の重要市府に對して出張所を有するの必要に迫らるべきは明瞭なりとす。其他太平洋岸に於ける英領加奈陀或は巴奈馬運河の開通に伴ひ、貿易の勃興を來すべき南米及び近時の新現象たる商勢の南進に伴ひ、南洋方面に於いて一大活動を爲すを緊要とすると亦贅言を要せざるなり。斯くの如く將來正金銀行が遂行すべき任務は多方面且つ重大なり。恐らくは正金として滿蒙の如き一小局部の煩瑣なる關係より脫却することは、寧ろ其の望む所ならむ。吾人は其の然らむ事を正金銀行の爲めに望むものなり。

功勞表彰（十二）
金融、產業、公共
全羅北道　朴永根

資性溫厚篤實、資產五十萬圓を有し全北地方に於ける屈指の資產家にして實力聲望共に厚く、啻に金融上の中樞人物たるのみならず、各種の公共事業に一として干與せざるものなく、殊に金融機關の設立に關しては多年盡瘁其功績偉大なるものありとす。即ち金融上に盡瘁したる功績を概說せば明治三十九年全州農工銀行の設立に當り最も力を致し、越えて明治四十年同行監事に就任し、次で理事と爲り同四十三年に至りて銀行長に陞任し、爾來勤續今日に及び八箇年の久しき銳意行務の遂行に努め又貨幣の整理普及並に金融調節等に盡したる功績實に沒す可からざるものあり。而して全州農工銀行が當初十萬圓の資本金に過ぎざりしに數年ならずして一躍三十萬圓に增資し、又預金の吸收甚だ良好にして大正三年末に於て三十萬餘圓に上り農工資金の投資額實に百四萬餘圓の多額を見るに至れり。斯の如く同行の業務成績は朝鮮全道に於て農工銀行中他に比す可きもの無く實に其第一位を占め延て一般金融に貢獻するもの一に本人の斯界に於ける信用並に斯業に對する努力の結果に外ならず、又一面に於て自ら發起人と爲りて資本金十萬圓の完天合資會社を創設し、社長として經營宜しきを得、商工資金の貸付及び之れが仲介を爲す等金融界に貢獻する所尠からず其功績最も顯著なり又氏は係て蠶業の開發に意を注ぎ隆熙三年舊韓國皇帝南韓御巡幸の際產業獎勵の趣旨を以て金六百五十圓の御下賜金を受けたるを以て永く之を記念とし本道產業の發達を企圖し御下賜の趣旨を徒爾ならしめざる爲め恩賜金を基礎とし多額の私財を投じて全州恩賜蠶業傳習所（現名稱私立全州女子蠶業傳習所）を設立し爾來道の補助金を受くるの外年々少からざる出費を顧みず、之が經營に力め益事業の發達に努力し設立以來私財を投ずるもの七千三百二十八圓、生徒を養成すること百六十人にして卒業生中には進で龍山女子蠶業傳習所に入學卒業し目下同道恩賜授產講習所又は稚蠶共同飼育所教婦として活動しつゝあるものあり、其自家に於て蠶業に從事し何も成績を擧げつゝあり、尙ほ氏は鎭安郡大頭山風穴の經營者にして此功勞亦沒す可からざるものあり最近數年間の全州に於ては土木、交通、敎育、衞生、消防等公共的事業の施設を要したるもの頗る多し、而して氏は是等各種の公共事業起る每に直接間接多大の援助を與へ又率先して金員を寄附する等篤行頗る多しとす

瑞光餘瀝
小松綠

（三）追遠申孝

明治天皇の登極令を定め給ふや定例の外に特に賢所大前の儀を加へ給へり、蓋し即位の事は之を國民に宣するに先だち之を祖宗に告ぐるを以て創意こそ畏こくも亦難有き限りなれ。追遠申孝の大道と爲し給へる先帝の御心、さればこそ即位禮の日先づ賢所大前の儀あり尋ゐて紫宸殿の儀となる、二儀にして實は一なり、神に告け民に宣し給ふの大御心、敬神撫民の極致と申し奉るべし。

十日午前三時半といふに人々早くも起き出でつ、沐浴して身を潔め大禮服を著用して七時前後に宿を出で、御所に向ふ、第一車寄より入りて第二朝集所に休憩す、此處は勳一等以下諸員の集合所なり、大勳位以下從一位以上は第一朝集所にて休憩す、朝集所は數班に分かれ更に數列に細別せられ、一列中に長方形の卓を連ね、一卓の左右に官氏名を記せる札を打ち、各人の受けたる參入券には第何班何列の何番目の卓に就くべき由を一目瞭然に示しあり、されば二千餘人の參列者も何の混雜もなく各其の自席に就くを得、八時三十分注意の振鈴ありて各班各列順次春興殿に向ふ、春興殿は賢所大前の儀の行はるゝ處なり、左右二列となりて廊下を進み、春興殿に面したる正門に至れば、右列は右側の幄舍に左列は左側の幄舍に參進して著席す、左側の上席には山縣稻稷相あり東鄕、奧兩元帥之に次ぐ、右側には松方大勳位大隈首相各大臣順次居並び多數からざるも夫人も其の間に散見す、後列には文武官貴衆兩院議員人民總代等席次を遂ふて整列す、暫時ありて各國の使節及び夫人參進す、鉦一打の合圖にて一同起立して之を迎ふ大鼓一打の合圖にて一同著席す、是に於て參列者は各其の位地に就き終りぬ、誰れも森嚴崇高なる儀典の威にや打たれけむ、人數の多きに似ず靜肅にして擧止進退の井然たる、是れまで絕えて見ざる所なり。

只見る春興殿の前面左右の幄舍を後ろにして各十人宛相對して威儀の本位に就きたるを、其の扮裝は卷纓の冠に緌を付け、闕腋の袍を纏ひ著錦の搦腰に腰を括め、下に單の大口を穿ち、平緒もて劍を帶び箭を挿みたる胡籙を頭高に負ひ弓を携へ、縢を穿ちたるは、繪卷物に見る古實の風丰其の儘なり、次ぎに垂纓の冠正しく或は黑袍或は緋袍折り重なり左右各二十人威儀物を捧持して本位に就く、其の品々は錦の嚢に納めたる大刀八振、紫衣に包まれたる壺胡籙八弓八張、桙八竿楯八枚なり、更に下りて左右各六人の司鉦司鼓前に鉦鉦太鼓を備へつゝ、いとおごそかに居並びて就れも御式の開始を待つ有樣、○四邊閑○として音○なく○靈○氣○人に○迫り○て○宛○から○神○域仙○境に○在○るが○如し。

日報歌壇
山居芳子

うちつけにそれとは云はねど秘の涙乾きてよろこびに燃ゆ

人なきにわれ羞らひぬみ名呼びつ狹霧隔てゝ見えぬ君が家

路間へば菊も匂ひぬ柿の果のいと赤かりき山添の宿

村はづれ君を送りて落葉敷く森の下道泣き濡れて來ぬ

霞溶の路に變りぬ君去りし轍の跡のわれにはかなし

夕映か紅葉の色か詑びしさに文机く窓の薄明りする

窓に倚れば吐く息白しふとさめし野分のあとの有明月夜

早咲か遲れ咲きかや金糸雀の黃なるが淋し晩秋なれば

霜の朝石橋渡るその香にふとゆゑわかねうれしさの湧く

霧の中散り來る紅葉背に受けて倚む心物語めく

滿蒙處分論
京城日報代理部　…

共保生命保險株式會社　第廿一回決算報告
一創立　明治二十八年四月
一資本金　壹百萬圓
一諸準備積立金　四百六拾六萬八千五百九拾壹圓
一保險契約高　參千八百壹萬九千八百參拾四萬五千圓
一創業以來支拂ヒタル保險金　四百八拾七萬參拾四圓餘

貸借對照表
未拂込株金	資產	七五〇,〇〇〇,〇〇〇
現金		四六,五〇〇,〇〇〇
郵便振替貯金		壹,〇〇〇,〇〇〇
銀行預金		九四,〇〇〇,〇〇〇
貸付金		貳,五〇〇,〇〇〇
有價證券		參,〇〇〇,〇〇〇
不動產		壹,〇〇〇,〇〇〇
什器		[illegible]
未收利息		[illegible]
未收保險料		[illegible]
代理店貸		[illegible]
假拂金		[illegible]
合計		六,〇〇〇,〇〇〇
株金	負債	壹,〇〇〇,〇〇〇
法定準備金		[illegible]
責任準備金		四,六壹九,四〇〇
支拂準備金		[illegible]
配當準備積立金		[illegible]
保險契約者配當金		[illegible]
恩給基金		[illegible]
支拂未濟金		[illegible]
前期繰越金		[illegible]
配當金		[illegible]
利益金		[illegible]
合計		六,〇〇〇,〇〇〇

損益計算書
本年度總收入金　五百九拾八萬七千石
本年度總支出金　五百五拾壹萬四千參百八拾八圓
差引利益金　四拾七萬一千八百九拾四圓

利益金ヲ處分スルコト左ノ如シ
法定準備金　貳萬四千圓
株主配當金　五千圓（年六朱ノ割）
恩給基金　五萬四千圓
役員賞與金　四千圓
特別積立金　五萬圓
次年度へ繰越　參千六百九拾四圓
七拾七錢參厘

大正四年十一月
取締役社長　堀貞
取締役　伊藤忠三
同　原彌兵衞
同　阿部彥太郎
同　小西新右衞門
同　靑柳一太郎
監査役　生嶋嘉藏
同　山口隆

追而取締役堀貞、伊藤忠三、原彌兵衞、監査役生島嘉藏、山口隆各任期滿了ニ付改選ノ結果何レモ再選重任致候

大正四年十一月二十六日發行京城日報朝刊第一面辰市本丸公告中第十二行目京城府元町一丁目二十七番地ニトアルハ「上ニ第十三行目「甲號」トアルハ「甲號」ノ誤植ニ付訂正ス

御大典紀念出版
山之井麟治著
朝鮮熟語解譯
大正四年十一月十日増補再版發行

本書は疑きに初版出るや非常なる好評を以て迎へられ忽ちにして全部配本品切の所諸賢の芳志に酬ゆる一般購者諸賢の芳情を得たりし以て光榮を得たり爾後益々註文申込者ありて尙ひて著者に請ひて更に再版發行の方を現さば、何人と雖も一度本書を繙かば、本書の完全を期したり今や二十八頁の增補を卷末に附し日本假名を付して鮮語讀の命を鮮音を縱橫使用し且つ朝鮮熟語の煩を除くを得べし速に高需の命を給へ

裏に非賣品たりし本書は今や、何人の高需にも應ずるの機會を得たり
全一冊四六版和裝　裝釘優美携帶至便
紙數　三百十餘頁
定價　金五拾五錢
送料　金六錢

發行所　京城本町　玉村書店
發賣店　京城本町　日韓書房　大阪屋　巖松堂

婦人世界
日本新三景　第三回投票結果發表
□貧しき人と眞の幸福あり　文學博士　井上哲次郎
□近火に遭つて心付いた事ども　非常夫人
懸賞小說當選發表（一等五百圓）（二等參百圓）
□火傷の痕を美しく治する法　矢島生
□炭の見分け方と買い方　婦人記者
△銀笛　網藏と梅之助梅之助と多美子途に如何になるぞアゝ其の最後の幕よ！　小杉天外
△行く水（其二）虛榮の幻に眩はれた女の晴れし半生（其二）き而も悲劇に其斷末を描く　下田歌子
辨當のおかず研究　各家夫人方の實驗問答
□母親の子を育てる相談所が出來た
□自殺狂を治療する催眠術　安田文良
□山中鹿之助寶井其角の子孫（現存）
□婦人內職しらべ（足袋內職の收入）
家庭　日常食物問題　村井弦齋

十二月號　東京實業之日本社　振替三二六番　定價金二拾五錢　一册拾五錢　一年壹圓五十錢

獨學三大講義
算術　代數　珠算
大正資各種試驗問題の重要事項を網羅し本院のカードの考案に係る學習の要訣を說明し懇切平易最も經濟的
受驗獨習者の良師
○○教授の特長を悉く具備し現代講義錄中の白眉　注釋各種試驗問題の新案……
會費只今入會金免除
東京本鄕駒込林町
東京數理學院
電話下谷一四九八

冒險世界
十二月號
歐洲大戰と飛行機　奈良原三次
小水大王「ジョージ五世陛下」
說暗號海圖　阿武天風
魚人王「エムマヌエル三世」
獨陸海軍幹部の諸將　抱天樓主人
▽ガリボリ遠征の快將ハ將軍
▽痛快片腕　驚嘆すべき自働自轉車隊の活動
臺灣　大陰謀團の末路
▽少年義勇團物語
▽パッチングトンの化物屋敷
▽早慶選手の優劣
定價十五錢　郵稅一錢　半年八十錢　前金一圓二十錢

中學世界
十二月號
活氣漲る
怒濤中の帆船より　眞田大佐
▲大禮御旆の由來に就て……　關根博士
隨落の四種　三宅雪嶺
破戒が成功とは……　冬湖學人
奇怪新金剛發見記　今川鬱峰
▽修養の根源　長谷川誠也
▽現代の九大野球選手　橋戶頑鐵
▽太平記時代　黑板博士
各元首の性及び趣味　藤川淡水
蒐集癖
歷史物語「六代御前」　中川鹹笛
▽魚群を遂ふて（漁民生活）
▽新珍懸賞　▲新年號の計
定價二十錢　郵稅二錢　八冊前金一圓六十錢

東京本町　博文館

○三帝陵御親謁

聖上陛下には二十六日午前九時二十分京都皇宮御出門華麗なる儀裝馬車燦たる天皇旗美しく鹵簿は京の街より伏見街道を經て泉涌寺阪道を進まれたり盛儀を拜觀する者夥し泉山三帝陵にては早旦より裝飾を施し泉涌寺にては鯨幕を張り御陵前には掌典神饌幣物を傳供し岩倉掌典長祭詞を奏し御著の　陛下には頓宮にて御召更へ各陵御親拜あり御式は午後一時二十分餘にて終了京都皇宮へ還幸あらせられたり尚　皇后陛下御代拜竹田宮妃昌子內親王殿下も三帝陵へ御代拜あらせられたり（京都特電）

○明年度豫算內示

豫算綱要と朝鮮特別會計

貴族院に對する明年度豫算內示會は二十六日午前十時三十分首相官邸に於て開會德川黑田正副議長を始め各派代表者二十六名政府側より加藤、武富、石井、尾崎、箕浦、河野、高田の各相其の他出席正午食堂を開き午後一時別室に於て武富藏相の來年度豫算綱要に關する大體の說明あり之れに對し二三の質問及び藏相海相の答辯あり二時半散會せり尚衆議院議員に對する內示會は午後四時より開會大體貴族院同樣の形式にて內示せり豫算綱要及び朝鮮特別會計豫算の大體左の如し

▲明年度豫算綱要　前々年度以來時局の影響に依る歳入減收の後を承け大正五年度に於ても亦平年に比して歳入の減額著しきものあり、之を前年度實行豫算に比すれば租稅及び印紙收入等に於て多大の減收あるを免れず官業及び官有財產收入の增加により僅に之が缺額を補足するを得たるも國運の進步に伴ふ歳出の增加に應ず可き歳入の增進を見るに及ばざるを以て五年度豫算の編成に就きては努めて經費の節約を計り緊急措き難き施設を實行するに止めたり

▲朝鮮總督府豫算　大正五年度朝鮮總督府特別會計豫算の大體を擧ぐれば左の如し

▲歳入　經常部四千百五十六萬一千六百二十六圓にして前年度豫算額三千九百七十七萬六千七百二十九圓に比すれば百七十八萬四千八百九十七圓を增加し、臨時部は一千七百九十八萬七千五百二十一圓にして前年度の一千八百七十八萬三千七百七十八圓に比し七十九萬六千二百五十七圓を減せり、而して借入金は一千五十八萬五千圓にして前年度の八百六十三萬四千三百二十七圓に比すれば百九十六萬六百七十三圓を增し、補充金は七百萬圓にして前年度の八百萬圓に比し百萬圓を減じ、又前年度繰入金四十萬二千五百二十一圓を前年度の二百十四萬九千四百五十一圓に比すれば百七十四萬六千九百三十圓を減せり、依つて五年度歳入總豫算額は五千九百五十四萬九千百四十七圓となり之れを前年度の五千八百五十六萬五百七圓に比するに九十八萬八千六百四十圓の增額を示せり

▲歳出　經常部三千七百七萬三千百五十五圓にして前年度の三千六百七十一萬三千百一圓に比すれば三十六萬五十四圓を增加し、臨時部二千二百四十九萬五千九百九十二圓にして前年度の二千百八十五萬七千六百九十三圓に比し六十六萬八千二百九十九圓を增加せるを以て結局明年度の歳出總豫算額は五千九百五十四萬九千百四十七圓にして之を前年度の五千八百五十二萬七百九十四圓に比するに百二萬八千三百五十三圓の增額を來せり

（備考）前年度實行豫算額は大正四年八月末日の現在に依る、尙ほ陸軍省所管新規要求中、朝鮮常設師團の經費增加額百二十五萬九千四百六十二圓も計上せり（東京特電）

東京發別電

▲政府に元の反感　[illegible]

▲新授爵者發表期　授爵式 [illegible] 宮內省間に妥協成立し [illegible]

▲豫算內示會　二十六日豫算 [illegible] ざるを得ざる非境に迫りつゝあり

▲憲政擁護俱樂部　憲政擁 [illegible]

▲支那誘引不成功　三國の [illegible] り甚し日本も反 [illegible]

○支那加盟問題と支那の意向

支那政府部內の消息に依れば英、露、佛側が支那を協商側に引き入れんとする魂膽は畢竟するに種々支那を利用せんとするにあり曾て山東に於ける日獨戰爭以前に當り支那より進んで加入決議を提出せし事あるも其當時は各國之れを拒絕せるに非ずや而して今日に於て之れが爲に支那の受くべき利益は唯將來講和會議に於て發言權を得るに過ぎず其の間に利益の大差あり英、露、佛が支那に更に多大の利益と安心とを提供せざる限り本問題は成立の望みなし（北京特電）

○在支獨人陰謀事實？

宣言書を上海より印度に發す

北京タイムス通信員は報じて曰く印度に反亂を起さんとする支那在留獨逸人の陰謀の風說は事實と爲りたるが右は英國に對する戰爭に回教徒を嘯集せんとする宣言書を上海より印度に發送せるものにして右宣言書は亞剌比亞文字を以て認められ土耳古皇帝土耳古回教主及び土國陸相ユンベルパシャに依り署名せられ鞄にて印度方面に運搬せられたるものなり（倫敦電報）

○段奉天上將軍の轉任

段上將軍は北京將軍府教育總監となり帝政促進軍人操縱總參謀たるべく後任には王吉林巡察使擬せられつゝあり段將軍は轉任前旅順、大連を訪問して例の如く都督府、滿鐵に敬意を表すべし（奉天特電）

○希臘終に聯合國加擔

雅典よりの報道に依れば希臘は誠意を以て聯合國の要求を容れたりと（紐育電報）

○隈伯は決して隱退せず

今期議會は大した事はない＝內閣の評判惡きは飽きつぽい國民性＝

高田文相は往訪の記者に語つて曰く、世間往々大隈伯は此の機會に圓滿辭職をなすに非ずやと傳ふるものあれど後繼者の見込みも立たざるに徒に一身の安を貪らんが爲何等の理由なく隱退するが如きは無責任も甚しきものにして斷じて斯の如き事なきを確信す去れど適當の時機に達し適當の後繼者を得ば敢て後進の爲途を開くことを拒まざるべく予等とても叩かれて膽こなる迄伯が此の難局に踏み止まるを見るに忍びざるなり思ふに同志會が今少し膨脹し議會に過半數を制し得る充分の見込立つに至らば舞臺は加藤男のものたるは當然の順序なるべく又た今期議會は風雲穩かならざるが如く取沙汰せらるゝも其の多くは感情論にして內閣の問題に關し貴族院は多少やかましき模樣なるも之れとても結局何とかならざるに非ざるべし近來現內閣の評判が兎角面白からざるに至りしは要するに人心が聊か倦來れりと云ふ單なる理由に外ならず之れ一面國民性の然らしむる處なりとは云へ又た我國民の政治思想が未だ幼稚の域を脫せざるが爲めにして如何なる大政治家も一年や二年にて國民が倦く樣にては何事も成し得る筈なく立憲政治の發達の爲甚だ悲むべき傾向なり云々（東京特電）

雜報

○減債基金の存否

強いて復舊を急ぐ要なし

卅四銀行頭取　小山健三氏談

予輩の曾て減債基金保存論を唱へたるは啻に在外本邦公債の市價崩落を防遏せんとする一手段方法たるのみならず、將來の外資輸入上外債募集に多少とも信用を附せしむべき制度たるを思惟せしが故なりき、即ち今日の如き金融關係の世界的にして、流通自由なる時は國家が他より資金を借り入れて事業に投資し自國の繁榮と興隆を期するは當然の措置にして決して負債國なるが故に恥づべきものにあらず、此意味に於て借款政策は爲得に排斥すべきものに非ずして國家の有利なる事業には外債を募集して國家百年の大計を樹つる肝要なれば其募集上に信用機關たり得る減債基金は保存して繼續すべきや勿論なり二十億餘圓の海外負債を有せる日本の如き財政狀態にては民間の外資輸入を助くる上より見ても之れを增加せばとて削減するは不可ならん、見よ我國の如何に積極主義を採ればとて明治三年より大正二年末に至る外國債の募集高は十七億六千五百萬圓なるに內償還せるもの二億六千萬圓に過ぎざる次第なれば以て一般を窺ふに足るべし然れども余の見る所を以てすれば之れが基金二千萬圓を今復舊すべきや否やは大なる研究を要し現在の帝國の將に經濟政策を勵立せんとして內には製鐵事業の擴張、鐵道廣軌改築問題あり外には支那放資の急務ありて二千萬圓の繰入れは其利害の及ぶ處尠からず、予輩は此際素志を飜へして右復舊を國家の有益なりとする事業の上に投せんことを望むものにて、日本は歐洲戰亂の影響にて一國產業上にも施設すべきもの多かるべければ特に在外公債も好調にある側ら世界の富强國が槪ね戰亂に直接間接の影響を蒙むり他を顧みるの遑なく非募債主義に據るより他なき今日の趨勢により強いて復舊を急ぐの要なく有利有益の方面に活用するを妥當也と思料す（大阪）

○祝賀會と鹵簿

十二月九日　天皇陛下御大禮祝賀御嘉納の爲め上野公園に行幸あらせらるゝ事に御治定相成りたるは既報の如くなるが當日　陛下には無蓋の御馬車に召され憲法發布式の時の如く鹵簿は極めて緩やかに運ばせられ數百萬市民は充分天顏に咫尺し奉り得らるゝ筈也（東京特電）

○將來の京城府

府廳舍擴張の急務　都市經營の二事業

京城府は曩に居留民團を合倂してより全く面目を更め廳舍を增築し吏員を增加して現在約二百人に近き人員を使用し居れり然るに府の本廳舍は二十有餘年前の舊建築にして現在使用に不便なる點あるを以て餘儀なく本年二回の大增築を行ひたれども之れとて到底當座の急を救ふに過ぎずして目下は本廳舍の階上一小室を剩すのみとなれり

▲移轉先の候補地　故に昨今目前に迫りたる問題は府廳舍の擴張なりとす然れども現在の敷地にては到底建築の餘地なきのみならず若し假りに增築を行ふとするも徒らに應急の處置を施すに過ぎざれば勢ひ何れにか移轉するを以て永久の策となすものなり左ればとて移轉に適當なる場所あるにあらず又豫算の關係もありて容易に之れを決するを得ざるものあれど若し出來得可くんば今の總督府商品陳列所の位置が陳列所としては偏在する嫌あれば之を他に移して此處に移轉せば如何と云へど將來龍山との連絡上不便なりと云ふ者もあり諸說區區たり

▲土木係の分室　然るに最近に於て從來本府又は道の所管にてありたる一二等道路全部の工事を擧げて府の土木係に移すこととなり來年度より各費共に實行さるゝに至る可きものあれば今日迄單に等外道路の補修位を行ひ來りし小規模の府土木係にては到底其用を辨せず早晚吏員の增加設備の擴張等數十倍の膨脹を來す可きものあれば之れを收容す可き事務室に不足を生ずる次第なり是に對しては元の漢城病院を當分府の分室とし使用せんかとも評議され居れども之れは執務連絡上の不便を免れざるべし

▲府事務の膨脹　將來京城府の事業の主なるものは一を衞生とし二を土木なりとす衞生設備に於ては汚穢掃除を始め順化院屠獸場の經營溝渠の浚渫墓地の整理にして土木にありては從來施工し來りたる等外道路は勿論更に總督府にて施工する市區改正後一二等道路の管理等將來大に府事務の擴張を見るに至る可きものにして土木、衞生の施設は漸を追うて發達改良され所謂都市の面目を保有さるゝに至るべし

人事消息

▲アランチ氏（トーマスクック社東洋總支配人）二十六日入京朝鮮ホテルへ投宿

▲マーフン氏（米國鑛山業）同上

▲コーチル氏（在上海實業家）同上

○南滿の鮮人（四）

鮮人對日支官憲

▲日本官憲の態度

一、安東地方　安東領事館管轄區域內にある鮮人數は七萬千二百餘人に及び南滿各地に住する全鮮人の九割八分を包容す而して同地の領事は間島の總領事と共に朝鮮總督府事務官なるが故に鮮人の移住に對しては勉めて好意的助勢を爲し總て何等の抑制を加へず附近殊に下流並に市內鮮人保護の爲めに安東民團內に朝鮮人組合を設け鮮人を指導し同地小學校內に鮮人學校を設け特に教師を聘し目下就學者四十四人內二十八人は下流地方鮮人の子弟なりと云ふ然れども上流地方に對しては遠隔にして保護監督全く行屆かず一年に一回位領事館員警官を遣はし狀況調査を爲すに過ぎざるは已むを得ざるべし

二、奉天鐵嶺長春地方　同地方に於ては市內若くは沿線にある者僅少なると鮮地を遠かるに從ひ幾分鮮人に對する溫情も薄らぐべく殊に此等方面の僻地にある者に對しては自然保護不行屆となる如く思はれざるにあらざるも特に輕視するの風も見えず要するに日本官憲の保護指導は敢て本國人を見る如くならずと雖も別に之を厄介者視するの風なく只地方により多少愛情に厚薄あるのみ彼等の移住に對しては皆之を歡迎せるものゝ如し而して一方鮮人は支那の行政に甘んじて差して紛擾を釀さず從うて官憲の配意を賴むこと少きの風あり

▲支那官憲の態度

一、鴨綠江上流地方　曾ては未開地發達の便宜と徵稅の利益とにより鮮人の移住を抑制せざりしが山東省方面よりの殖民增加して地方漸く開發せられ殊に日露役後日韓倂合前後に亘り鮮人移住の激增より土地の兼倂を恐れたると外人利權回收熱の結果鮮人の移住を喜ばず其結果不當の課稅を爲したることあり而して鮮人は之を免れん爲め歸化せし者も尠からざりしと云ふ

二、鴨綠江下流地方　當地方の移住は倂合前後支那官憲の氣付かざる間に一時に行はれしと土地の租借が契約當事者間に穩密に行はれし爲めとにより當初は何等移住を嫌忌するの風なかりしも其の後利權回收熱沸騰し國權維持と紛擾回避の爲め大正元年五月より借地契約は官府に登錄を要する旨の布告あり暗に貸主たる支那地主の借地締約を阻止せしが故に爾來鮮人の移住減少するに至れり

三、奉天鐵嶺方面　同方面にては鮮人の取扱寬大にして例へば護照なく地方を旅行するも日本人に對する如く峻嚴なる取締を爲さず

四、長春吉林地方　此方面にては慨して鮮人を輕んじ差して念頭に置かざるも地方によりては排日の風あり自然同化せざる鮮人を僞嫉し重稅を課したる例もありと云ふ

以上要するに各地支那官憲は鮮人を輕視し其地方に自由に進入し耕耘に從事するを默認せしが鮮人が土地を租借すること多きに至り又外人に對する利權回收熱の起りたる爲め漸次鮮人の移住を抑壓するの傾向を示すに至れり

……して全滅亡に歸し甚だしきは枯死せ……ゝありたるに更に雄大の打撃を蒙り來り朝鮮近海にのみ棲息せる魚類を……萩地方の近海に於て漁獲し得るに……金融界愈々逼迫を告げたる事とて本……ろべからずさて各當業者は頗ろ……觀の狀態にあり萩町の夏蜜柑生產量は平年作にて實に百三十五萬三千……

▲廣告▼

商業登記公告

支配人選任　支配人ノ氏名住所　京城府旭町壹丁目四番地西島峰二郞、主人ノ氏名住所　山口縣豐浦郡阿川村貳百五拾六番屋敷市村貞雄、支配人ヲ置キタル場所　京城府蓬萊町壹丁目九拾番地

內國通運株式會社ハ大正四年拾月拾五日後志國小樽區手宮町拾七番地ノ支店ヲ後志國小樽區手宮町貳丁目四番地ト變更シタリ
右大正四年拾壹月貳拾參日登記

合資會社加藤洋行ハ大正四年拾壹月貳拾貳日京城府旭町壹丁目七拾壹番地ニ支店ヲ京城府本町貳丁目四拾五番地ニ朝鮮ニ於ケル代表者土谷慶壽ノ住所ヲ右同所ニ各移轉シタリ
右大正四年拾壹月貳拾四日登記

京城地方法院

京日案內

◎普通　一回（一行）金三十錢（無割引）匿名一回毎に金五錢增

◎最大有利の好事業あり秘密に共同出資者を求む希望者午前中至急來談あれ黃金町一の壹九八▲普及社(72)

◎貸家　万千閣右石段を上りて右折下り口水道付平家三間家賃八圓黃金町電話二二三六番　碇寫眞館(71)

◎各地に至急駐在社員を置く月收參拾圓履歷書貳錢切手送れ詳報す京城黃金町一丁目六〇番▲西村(68)

◎女中入口　官舍、商家、旅館　京城明治町　萬年社電話一八四四　893

◎讓家　市內目抜の場所今回歸國に付至急格安讓る希望者は京城本町一丁目　福井堂　49

◎貸金　官吏會社員の御方へ小口信用秘密融通御一報次第御伺上候京城大和町三不老湯前横丁〇起木屋　54

◎職工募集　廿五歲迄勞働に耐得る者要保證人　市藥町　朝鮮製紙株式會社　電話壹六五番　65

◎番外　一回（一行）金六十錢（無割引）匿名一回毎に金五錢增

◎東京流　仕立職先を求む　本職の者に限る確實保證人要す希望者至急本人來談（素人は御斷り）本町三越吳服店(70)

◎好職　ゴム事業傳授す月收廿圓以上詳細郵劵十錢送れ〇ルーデサック一個五錢千宮サック同五十錢密送要二錢ゴム風船問屋　京城大漢門前電二六〇六　太陽ゴム商會(74)

諸流　ウタイボン　〇壹番本各種及び附屬品全部　京城南山町三丁目　中川靜松堂(75)

恩給年金退隱料長崎即時取引來十二月廿五日迄二萬圓限度貸付千圓以上特別契約　黃金町通櫻井町入西四ツ角　電話一二三一番　博多屋本店　856

カゼピリン　といへば近來最も賣行きよきかぜ藥といふことは我が賣藥界の定評である　特約店　京城本町二　古城贊化室(73)

移轉　鍼灸　一般　京城本町二元壽町島崎病院前　子宮及び胃腸は特に請合　誠心堂　吉川市(46)

◎番頭　店員　至急入用　齡十六歲より廿五歲迄但吳服商に經驗ある希望者本人至急來談あれ（本城菓子屋隣）四九一　〇京城本町一　木塚製菓　53

◎獵犬讓　雉鴨專用牝二歲水陸何れか一頭讓る純良種枝藝完成優俊希望者來談に應ず實地試驗　京城冷洞七番地　吉村　67

◎賃用新案堅牢椅子並に防水布　◎監獄製火鉢格安賣出　是非一度御來店の程願上候　洋家具專業　松浦京城出張所　黃金町一長橋通角　電話三二五九番　831

▲りん病ばい毒　本月三日の御方は御出でなさい詳細は京城日報を御一讀あれ　京城南大門外　ドラッグ商會　938

產婆　潔入ツマ　新龍山漢江通原病院向側　山野改メ　電話六一九番　888

質屋　前同樣御引立願上候　支那領事館通り　土藏新築確實に御扱可致候　黃金町二長橋通入　電話二九一六番　田村質店　902

平壤　銀牌受領　㋳醬油は今回の大共進會に於て優賞と證明に依る　內田釀　新龍山局前電話二四六　御引立を乞ふ　內田出張店　933

▲パン　品質の優越せると目方の豐富なるは　太平通二丁目　相川パン屋に限る　電話は二一八九番へ御掛下さい　47

鍼灸按腹術　マッサージ　清水長闢　京城南山町一丁目松葉亭隣　各種手術は多年學理と實驗の結果諸病を治するの妙を有す〇電話九六七番　59

新刊書御案內

書名	著者	定價
波動振動及避雷	鳳秀太郎	四五〇
支那政治地理誌下卷	木村欣一	三五〇
鐵道	高木太郎	一五〇
ゼエレン、キエルケゴオル	和辻哲郎	二五〇
心靈學講話	高橋五郎	八五
和漢名士參禪集	忽滑谷快天	一〇〇
三宅雪嶺修養語錄	生田春月	五五
會社員物語	午後迂人	三〇
怪美人	宮地竹峰	八〇
探偵ロマンス	松崎天民	九〇
北方の流星王	鷲作元八	八五
生花秘傳集	阪正臣	四五
大正いろは引大辭典	物集高見	八〇
作文問題答案文例	栗原鐵山	六五
ペン習字法及手本	三浦吉東	八〇
壇上より國民へ	三宅雪嶺述	一二〇
列强の不安と野心	岡中澤	一六〇
國民教育論	大隈重信	一三〇
經濟より見たる道德	添田壽一	八五
假名貞觀政要	夾巳吳京選	一〇〇
早く彈ける珠算の覺方	大熊中本	六〇
廣告と販賣	佐々木一九	一二〇
腦を害せぬ勉强法	菅尾博士	五〇

京城本町　電話二〇八六番　振替京城二五七三　大阪屋號書店

壹千個限り特價品提供
ニッケルランゲン（象印）無地十六片
アンクル懷中時計　代四圓五十錢
銀側七子同品　代五圓八十錢
同梨地同品　代六圓二十錢
ニッケルウヲールド梨地十六片
アンクル懷中時計　代四圓八十錢
同專賣側同品　代五圓二十錢
銀同梨地同品　代六圓三十錢
但し何れも鎖方針皮共　期間本年中　滿數の際は謝絕

京城本町二丁目　三浦天龍堂　（電話二一四三）

[illegible]又他國の容喙[illegible]ある政策動もすれば背反するを以て現内閣に對し反感を抱けり

[illegible]題に對する世論昂騰し銀行家は貴族院の硬派と提携し政府は遂に屈伏せ

[illegible]五日夜歸京したり

[illegible]陸相は二十[illegible]

[illegible]が會議後陸外交總長は直ちに英[illegible]使を訪問せり

[illegible]一府の本年一[illegible]に於ける夏蜜柑の作[illegible]に會込果實腐敗

[illegible]夏蜜柑全滅の爲めに不慮の困難を來し生活難に陷ゐれるものさへあり累年の不景氣漸く恢復せんとしつ

[illegible]況を恢復せん[illegible]ある折から近來風說によれば朝鮮近海の潮流方向次第[illegible]内地近海に近き

[illegible]從つて夏蜜柑は本年に引續き全滅する事なきを期し難ければ此北[illegible]當業者は防寒の策に留意せざ

[illegible]栽町の全[illegible]命を繫ぐといふ栽町立柑橘試驗場に於ても是れが防寒策を講究中なりと（[illegible]）

●米田主獵頭の危篤

尿毒症の徴候─七十七歳の高齢

主獵頭米田虎雄子爵は先年來糖尿病に罹り引續き腎臓炎を併發し駿河臺の自邸に靜養中なりしが二十三日に至り俄然尿毒症の徴候を呈したるより三浦博士の診斷を受け頗る危篤の狀態なりしが二十五日午後に至り稍や小康を得たるも何分七十七歳の高齢なれば容易に安心なり難し（東京特電）

▲至誠奉公の人

先帝に奉侍すること四十年

米田子爵は代々熊本藩の國老たる長岡家に生れ嚴父長岡監物氏は夙に勤王の大志を抱き遂に僧月照と共に薩海に投じて死んだ人である、子爵は實に此の

▲勤王家の二男に生れ嚴父の偉大なる精神を享け繼いだ人であるが明治四年以來 明治天皇陛下の侍從となり爾來先帝御崩御に至るまで四十餘年一日の如く君側に奉

危篤に瀕せる米田主獵頭

侍した人である、されば先帝陛下に於せられては子爵の爲人を愛せられ平素は素より各地御行幸の砌も必ず扈從仰せ付けられたもので御行在所の御徒然にも 陛下の御話相手に召出された事が尠くなかつた殊に明治廿七八年戰役の當時廣島大本營に於ても常に忠勤を勵むだ人であるが 先帝御登遐の際の如きは殆んど

▲精神的に殉死申し上げた程で彼の御百日祭の祭場で卒倒した如きは眞に子爵の赤心の發露したものであらう、子爵は別に學問した人でも無かつたが事に當り其の大勢を觀るの明があつて彼の米艦來航に際し嚴父の浦賀御番に隨つて以來彼の戊辰の役には熊本の藩兵と共に奥羽に轉戰し又西南役には諸南の地勢に通じて居たので官軍に献策する處尠からずであつた、後主獵頭に任ぜられては毎年京都、黑木、上村將軍などと共に天城、日光、雲畑等の御獵場で壯快な猪狩を試みた程で平素から非常に元氣な人である、氣質は

▲又非常に濶達で常に磊々落々誰れでも會へば氣分が直ると言ふ程であるが殊に書生などを集めては却々面白い元氣な話をせられた併し子爵のは嚴父並に横井小楠先生などから聽いた耳學問であつたので往々間違ひもあつたけれ共寧ろ學者の話よりも眼目を掴むだ處が偉かつた、曾て横井小楠先生の歴史を數多の名士が語られた時子爵も壇に立つて滔々一時間餘の小楠先生傳を試みられたがこれなども學問で無く子爵の精神から出た談であつたので聽衆は非常に感じたやうであつた、兎に角早く健康を恢復されたいものである（某氏談）

●顯微鏡を四十臺

買入れて開校の準備が悉皆出來た

來年から開かれる朝鮮醫學專門學校

總督府醫院に屬してゐた醫學講習所は已に本年度を以て醫學專門學校に引き上げられる豫定のところ三十六議會解散の結果實現するに至らなかつた該問題は却つて延期のため更に計畫の歩を進めて完全の域に達し

■來る議會を通過するを俟つて直ちにその内容を發表明春四月の新學期より開校する手順になつてゐるらしい右に就ては昨年度から著々その準備に取り懸つて居つたので何時蓋を開けても差支へない、その内容は發表されて見なければ判らないけれど大體の方針としては朝鮮に資格ある醫師を多く成養するといふにあるので入學志望者を主に朝鮮人に採るのは勿論であるが又内地人にあつては特に京城中學校及びこれと同程度の資格ある者を一部入學せしむることになつてゐる、總督府醫專の事は已に

■内地にも傳はりて入學志願書を醫學講習所に送つてくるものが昨今毎日一二通はあるが前記の次第で斷つてゐるさうである目下問題になりつゝある朝鮮に於ける中學卒業者の處分は醫專乃至工專の實施を俟て解決されるわけだ、朝鮮人の入學資格は高等普通學校並びにこれに準じた學校出身者であつて入學は單に學力のみによらず身元、財産等の點も參酌するのだといふ、專門學校になれば學費は何の位要するかといふに從來とは違つて月謝は幾分でも徴收する事となるが内地とは比較にならぬ程に尠ないだらうと思はれる、その上教授法は成るべく

■講義又は實地に就いてやる方針であるから圖書費としては僅かで足りるし内地のそれの如くに巨額の學費を要しない、最も醫學生自身に三十圓使ふも五十圓使ふも勝手であるが又極めて切詰めた學費で充分所定の學を修むる事が出來るのだ、醫學講習所は昨年から給與を廢したが現在の講習生の食費は一人六圓乃至七圓五十錢月謝は要らぬので一箇月の學費は十圓乃至十二三圓で濟んでゐるといふ、開校後體面を保つために

■帽服の制度を設けるか否かこれも定まつてゐないが比較的民度低い朝鮮人が多いことゝて當分は實行されまいと思はれる、

醫專陞格の準備として臨床講義室、解剖室、病理室の工事も大に進んで居る、教授上の必要物なる病理、解剖材料は内地滿洲に比較して頗る多い見込みで教授用に不足を感ずる樣な事はないさうだ此の他に好都合なのは總督府醫院といふ大きなものを控へてゐるので萬事に都合がよく臨床講義には施療患者を使ひ講師の如きも總督府醫院醫官にしても

■醫專教授を兼任する者もあり醫專教授にして總督府醫官を兼ねるものも出來るべく多士濟々なのである、唯準備を整ふるに就て困つたのは教授用の器具機械で顯微鏡の如き日本中を探がして漸く四十臺を手に入れる事が出來たといふ始末である、これは戰亂のため獨逸からの輸入が絶えたのに基因するは言ふまでもない、要するに最早諸般の問題は間然するところなく出來て豫算の通過次第來學年から三百人の醫學生を收容する事が出來るのである

晩秋雜景─おいものつぼやき

●支那巡警の暴狀

工藤巡査を取り捲き菊池巡査を毆打す

二十六日正午奉天九二の店員某なるもの荷車を輓き大西門を通行中、巡警が通行を拒みしより行き合はせし工藤巡査が右側禁止ならば左を通行せしむ可しと言ひて會話中、寄り集りし群衆の中より一無頼漢現はれ工藤巡査を毆打せしを以て工藤巡査は之を捕へむとせしに巡警は附近の彌次と共に之を妨害し日警を殺せとて工藤巡査を取り巻き巡警局へ引き行けり、其際行き合はせし私服の菊池巡査は急を見て工藤巡査を救はむとせしに之れまた巡警無頼漢等に毆打せられ耳の側に負傷せるより引返へし領事館へ急報せしかば警官應援し支那側交渉員と領事館員と小西門警官派出所にて談判の上、工藤巡査を取り戻して午後三時半引揚げたり何れ右事件は改めて正式交渉開かる可し（奉天特電）

●輕便鐵道の貨車轉覆す

西湖津咸興間に於ける輕鐵は目下汽笛式に改造中にて處々修理の箇所あるも交通は辛じて繼續しつゝありしが昨二十三日午後咸興より西湖津へ向け本宮に懸らんとする折しも如何なる故障にやトロは俄然轉覆し大岡德穂なる者は即死を遂げたり

●我輩は紛爭課勤務の者だ

怪しかる朝鮮人

京城和泉町九十二番地吳雲善(三)は臨時土地調査局臨時雇に奉職し本年十月十日頃水原郡鄕南面石川里金敎善より振威郡青北面閑山里一統七戸李恒九が土地所有權に關し紛爭中にて心配し居るに付盡力し呉れと依賴されたるに乘じ

▲金員を騙取せんことを企て金敎善に對し自分の手にて判明し得る樣周旋するにつき紛爭に關する事實取調べの上書面にて通知すべしと申入れ置き四月十五日頃金敎善より右紛爭に關する事實を記載したる書面を送附し來りしに依り其翌日該書面を携へ李恒九方に至り同人及び其父李鍾岳に面會し自分は臨時土地調査局の技手なりと稱し兩人より右紛爭事件を聽取り自分は調査局の紛爭課に在勤する者なるにつき直ちに判決する樣取計ふべきに依り印紙代として必要なるより金十五圓提供すべしと其場にて十五圓騙取し尚往復の車賃なりとて五圓尚金員必要なりとて借用名義にて十圓計三十圓を騙取して立歸り四月廿二日頃再度李恒九方に至り過日の事件は總て查定濟みとなる筈なるが

▲其運動費ごして五十圓を交付せよと欺きて同樣騙取し尚同月廿一日頃自宅にて臨時土地調査局用紙を用ひて臨時土地調査局高等土地調査委員の名義を以て金學俊梁仁洙間の紛爭に對し查定したる旨の查定書を僞造し臨時土地紛爭課なる名義を以て李恒九の土地は查定さる旨記載したる查定通知と題する文書を僞造し右二通の文書を携帶して同月二十五日頃李恒九宅に至り同人父子に示し斯の如く查定さるゝ筈にて其通知ありたりと稱し其查定費用に要すべければと稱し金四十七圓五十七錢を騙取したること高陽警察署の手に發見され京城地方法院に送致されたる所檢事に起訴せられたり

●姉婿の印を僞造した曲者

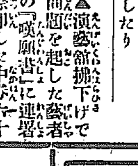
茨城縣東茨城郡小松村大字上入野住所不定猿田信義(三五)は平壤南山町に滯在中本年九月十七日同家の郵便貯金現在高九十圓のものを窃取した上其の事情を知らざる同地大和町なる某印版屋に『市野澤』なる印章を彫刻せしめ同日平壤郵便局に至り自分は市野澤西之助弟同姓三藏なるが金員領收に關する委任狀及び領收證は作製し來れりと提出し局員を欺き八十九圓を受取り京城に逃げ來り古市町旅人宿岡本方に投宿し十月一日同宿人なる元山仲町一丁目太田某の絹給一枚外二點(價格金八十二圓)を窃取し更に仁川に逃げ行き花町一丁目下宿角田方に止宿中同月六日同宿人晋山某の毛布外一點(五十二圓)を窃取したることを突止められ京城本町署の手に取押へられ京城地方法院にて石村判事水野檢事立會ひ山內書記係にて懲役一年の判決を受けたり

●ハムレットの活動寫眞

京城基督教青年會主催の下に有樂館にて來月一日より四日間開催せらるべき活動寫眞ハムレットは沙翁作中の悲劇にして其眞髓は現代世界無比のハムレット俳優と稱せらるゝロバートン氏及びヲフエリヤを演ずるエリオツト孃に依りてのみ傳へらるゝが今回同劇を撮映せしめたるに曩きに英國 皇帝皇后兩陛下の叡覽を賜り好評を博したり曾て同青年會の主催にて當地に映寫せる『何處に往く』及び『噫無情』に比して遙かに勝り居れり然して同寫眞は十二月下旬帝國劇場に於て試演せらるべきものを特に京城に持ち來り最初の封切を爲すわけなりと

●牛車に轢殺さる　京畿道

廣州郡彰州面清潭里牛車夫李蔵順(三)は本月十四日高陽郡纛島公立普通學校の依賴を受け大根牛勞を牛車に積載し同校より京城に向ふ途中龍山橋附近に於て同じく京城に向ひ牛車を牽き來りたる同郡纛島宋玉鉉に出會ひ同行し同郡漢芝面往十里南端地迄差蒐りたる際宋玉鉉が所用ありて往十里に立寄りし爲め其依賴を受けて自分の牛車と共に二臺を曳き行きしに所該地附近路上にて突然自分の牛は駈け出し爲めに宋玉鉉の牛車監視を怠り附近路上にて遊歩中なりし往十里陽地洞李貴成四女李奉順(五)を車輪にかけて轢死せしむるに至り所轄高陽署より警官出張取調べの上京城地方法院へ送致したり



▲演藝館拂下げで問題を起した藝者の『嘆願書』に連署捺印した中券六十名の連判狀と云ふものは近頃仲々見られぬ珍物である▲第一三太夫事矢崎すみ以下五十九名が質名發名は素より年期證文より外に押したことのない實印をベタ〳〵と押してある▲と言へば勿體らしいが質は水晶や象牙で唐草模樣を飾つた洒落たのなどは二ツか三ツ多くは御商買柄にも似ず牛骨や黄楊と云たお手軽向き▲と思へば實印などはお目にかゝつたことがないわと石鹼や蠟燭で假作りの間に合せものもある▲物數寄にも統計をとつた人の說によると實印が三十八人拇印が十六人間に合せ物が六人と云ふ割合になるさうだ▲近頃振つた看板の一つは壽町の料理店に『超人的料理、天外的調味』と云ふのがあるかと思へば立札の中で奇抜なのは憲兵司令部の横に『君子は小便する勿れ』▲京城郵便局では公衆に便を圖るために窓口に電報賴信紙筆などを置くと何時の間にか無くなつてる係員が根よく見て歩いて無くなつたところへは丹念に補充して置くが直きに見えなくなる甚だしいのは內壺の蓋が眞鍮なところからもぎとつて持つてゆく▲筆や內壺の蓋は下等な朝鮮人の出來ごゝろとも思はれるが電報賴信紙の五六枚を摑みとつて鼻をかむのは內地人の仕業ださうな▲そのため近頃では一枚宛上から取る樣な仕掛けにしてあるがそれでも鼻を拭いて澁り構はず投げ棄てる者が多い▲局長始め係りの者は氣を付けて筆の毛の切れたものは取代へさせ紙屑の散亂したものは掃き取らせてゐるがどうかすると無い事があるので迷惑する者もある▲少し公德心を養つたら何うか

貯蓄預金 元金百圓ニ付日步壹錢四厘　金壹錢以上何程ニテモ御預申候

株式會社長崎貯蓄銀行代理店

株式會社十八銀行京城支店　京城黄金町 電話四二〇番 振替貯金口座京城八五八番

同　龍山出張所　龍山旭橋町 電話一八一番

諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

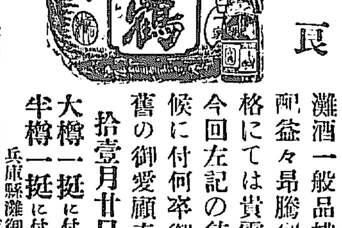
細川文學博士題　文部省教科書取調囑託 和田信二郎編

增補再版　**皇室要典**　上製美本全一册 紙數六百有餘頁 正價金一圓五十錢 郵税金十二錢

本書は我が皇室に關して一般國民の知らざるべからざる事項を網羅し、之を十四章百五十餘節に網大し、更に詳細なる索引を卷末に附したれば以て皇室事彙とも謂ふを得べし。今や曠古の大典に當り、皇室の尊嚴と國體の精華とを明かにし、以て國民敎育の大本を確立するの好機に際し、識んで玆に一本を薦む。

東京 神田　光風館　振替東京二一三七番

天下の銘釀



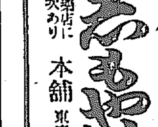
清酒　醇良

灘酒一般品拂底の爲め氣配益々昂騰到底從來の價格にては貴需に難應無止今回左記の値上げ實行仕候に付何卒御諒承の上倍舊の御愛顧奉希上候

拾壹月廿日より
大樽一挺に付金壹圓上げ
半樽一挺に付金五拾錢上げ

醸造發賣元　兵庫縣灘御影町　嘉納合名會社　電話三七番

鐙馬印



手足のかゆみいたみがよくなをる

しもやけ根切薬　定價 五錢 十錢 廿錢

各藥店に取次あり　本舖 東京日本橋上槇町　安川晃榮堂

營業課目

船具金物、鐵道、鑛山、土工
建築材料、ペイント及油各種
天幕雨覆製作、朝鮮苫有
直輸入品ハバクスペイント類及各種ロープ類ハ戰亂ノ爲メ暴騰致居候處特ニ相働キ御用ニ應ジ可申候
總督府認可船燈救命具信號器販賣所
近江帆布株式會社朝鮮一手特約店
大阪小森製鎖塲製品朝鮮代理店

〈村〉　仁川本町一丁目電長五六振替京城五九　**村谷吉藏本店**

平安北道義州城內電長二一振替京城九八一　支店 **義州印刷所**

内科 小兒科　京城日出小學校前　入院隨意　**多々見醫院**　院主 醫學得業士 多々見五郎　電話九四〇番

千生瓢 (52)

須藤南翠作　筒井年峰畫

第一戰（五）

賤ケ嶽の陣中には、桑山修理亮一玄、羽田長門守義眞と議つて、持口を嚴しく守らせ、中川の返事如何と待つてゐた。間もなく使者立ち歸つて、瀬兵衛が口上遺ちもなく復命した。義眞は膝を打つて、

『しなしたり、口上が違うたは。其砦要害惡く、防戰の便りなし。引上げて此れへ御入あれといはれて、然らば左様仕らうとは、我等とても言はるゝ事でない。中川程の士が何とて、之に從はうぞ。可惜勇士を死なすたな』と、蹉跎して口惜がる。

一玄もうち首肯いて、

『いか様さうぢや、此砦の寄手案外の多勢、味方甚だ手薄なれば、御入あつて御加勢賴むと申さうならば、十に一つも思ひ返す事もあツつらうに、いかにも殘念おざつた』と、俱に後悔するのであつた。

羽田義眞は重ねて使者に向つて、

『大儀ながら、今一度高山右近大夫殿御陣まで參りくれよ』と言ひ渡した。

使者は一議に及ばず領承した。

『御口上何と申しまする』

『されば、其方彼の陣所に行き向ひて申さうには、越前勢雲霞の如く寄せ參つて候ふ。定めて其御陣へも取りかゝり申すべし。但し其御陣は懸隔り居りて、他の陣との連絡も惡しく、防戰も不便と存ずる。當方とても甚だ手薄の事なれば、一緒になつて防戰仕りたく候ふ。仍て早々御入りあらせ給へ。中川瀬兵衛殿へも其よし申し入れて候ふと、懇ろに申し入れよ』

『仰せ承はつておざりまする』と、使者は一揖して駈け出した。

其間にも敵は漸次に進み寄る。陣所々々の注進は織るが如く、勢を繰り込み、矢丸を配り、切所々々の防備は、油斷なく堅固にした。

やがて使者は汗馬に鞭を擧げて歸つて來た。一玄、義眞は待ち離て、直に面前に呼び出した。

『離所の往復念なう早かつた。高山殿御入りあるとか』

『いや殿、御入りあるまじいとおざりまする』

『口上詳に申述べたか』

『一ツ、委細に申し上げまいておざりまする。高山殿篤と御聽き取あつて、御返事おざりまいた』

『其返事何とぢや』

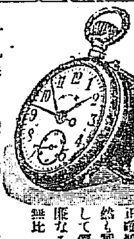
『されば おざりまする。高山殿仰せられまする、御口上の趣き詳に承はる、何様越前勢夥多しく押寄せ參り候ふげに聞き及ぶ。味方を離れて孤立したる上、堀も乾かず、要害も整はぬ當城の事なれば、中川が砦ともに、敵の先途が押寄する事と存ずる。仍て其々手配り油斷なく、寄手のかゝるを待ち受け罷り在る。然るに此砦は要害も整はず、合戰も難儀なれば、大勢にて要害もよく、合戰も樂なる其御砦へ、つぼみ入り候へとの御懇志、重々忝なく存じ候ふ。斯く引き離した處へ、右近參れと筑前守下知致し候ふまゝ、斯やうの怖き處とも存せず罷り向うて候ふが、あはれ其時かやうの離所と知りたらば、平に斷り申して、御一所に罷り候ひしものをと、右近後悔罷り在り候ふ。去りながら、既に何氣なく受取りて候ふ上は、筑前守下知なくして、砦を開け申さん事は、叶ふまじく候ふ。但し是しきの心得なき右近大夫と思召しての御戯れにや、御使者大儀、先づ一獻と申し度候へども物前にて萬事整ひ申さず、慮外ながら御着用の羽織を脱いで被物賜りまいた』

使者は口上濟れなく申し述べた。

一玄も義眞も、大岩、岩崎の兩將が必死を期した防戰を想望して、面目合せて暗涙を泛べたのであつた。

キナコ饅頭 壹錢
ソバ饅頭 壹錢五厘
元祖 京城明治町二丁目(耶蘇教會通)
元祖燒餅製造元 長崎名物屋

月やく
身體に害なく通經する良法 迎に御知らせ致ます
東京神田錦町三ノ一九 境田けい子

◎新荷着アンクル式片側懷中時計◎

正確時間保證 給も實用的にして價格の低廉なる事天下無比

形	品名	價格
十九形	鍍金側(調刻蓋)	一圓九十錢
十八形	ニッケル側	[illegible]
十三平形	同(機械裝飾)	[illegible]
十九形	同(兩蓋)	[illegible]
十七形	銀	[illegible]
十八形	同	[illegible]
十九形	金鍍金彫刻兩蓋	[illegible]
十六形	ニッケル腕時計	[illegible]
二十形	同 ラヂウム付	[illegible]
十二形	同	[illegible]
二十二形	銀鎖付	[illegible]
十二形	金パリ(十年保險)	[illegible]
十一形	同	[illegible]
十九形	同	[illegible]
十八形	金	[illegible]
十八形	同	[illegible]
十二形	同	[illegible]
十六形	十八金	[illegible]
十九形	同	[illegible]

右は今回新着の商品にて本商會獨り印度洋無き所のもの伏して御注文に對しては小包郵便にて地方遠隔の向は御送附申上候
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貴直輸入商
イングレッソレー商會
本店 京城本町二丁目電話九七二番

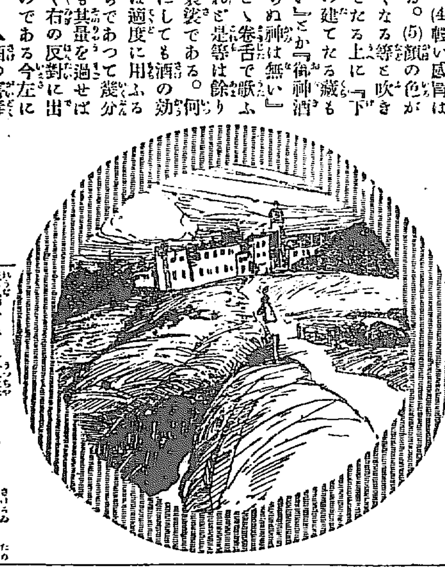
二日醉と呑酸噯噫及其療法

(ミツワ文庫四•一一)

酒の効能=酒の害惡=過飲•惡醉=二日醉の病狀=二日醉及呑酸噯噫の原因=過飲惡醉の療法=二日醉及呑酸噯噫の療法

▲酒の効能を學問の上から公平に研究した人の言葉に依ると、(1)食物を消化する液（胃中に出る鹽酸やペプシンなどの如し）が餘計に出るから食慾を進める。(2)身體が温かになる。例へば吹雪烈しい日に外出しガタ〳〵戰慄る様な時に一杯飲むとホク〳〵温かになつて寒さを凌がれるやうなものだ。(3)身體の疲勞を回復する。大に働いた後で一杯飲むと殊の外骨休めになるは事實である。(4)氣の鬱々する時に飲めば精神を爽快にする。(5)急に貧血を起して腦卒倒するなどの臨き折に氣附藥となることが往々ある。(6)難其他の場合に少量を飲むと疼痛止となる。(7)不眠者に用ふれば催眠劑になる例は少く無い。(8)疾病の回復期に強壯劑として應用せられる。(9)身體の肉や其他の部分を造つてる蛋白質や脂肪を節約して減さぬやうにする作用がある。(10)多少便通劑となる。即ち便秘せる折に飲むと通を利くする作用がある。此外に學問の上からで無く唯上戸黨の誇る効能は(1)醉つて寢ると早起が出來る(2)間食せぬやうになる。(3)人に臆せずになる。(4)輕い感冒は治る。(5)顔の色が善くなる等と吹き立てたる上に『下戸の建てたる藏も無い』とか『御神酒上らぬ神は無い』など、是等は餘り大袈裟である。何れにしても酒の効能は適度に用ふるからであつて幾分でも其量を過せば悉く右の反對に出るのである今左に

▲酒の害毒を述べると、(1)胃腸を害する。(2)意志が弱くなる(3)五官即ち視る感覺、聽く感覺、嗅ぐ感覺、味ふ感覺、觸れる感覺が衰へる。(4)疲勞を覺えて仕事が厭になる。(5)神經を傷め爲に眩暈卒倒等を惹起す。(6)興奮は麻醉と變じ眠りを貪るに至る。(7)心臟は肥大して心臟病の種となる。(8)腦溢血即ち俗に謂ふ中氣に罹り易い。(9)動脈硬化を招く。(10)呼吸器病殊に氣管支加答兒に罹り易い等の害を來し慢性酒精中毒の重いのになると手足は震へ言語は不明瞭になり精神は朦朧として恰も白痴の如くになる。それから又意志の弱くなつた結果放蕩に身を持ち崩し家を滅し身を亡すに至る者あるは人の能く知る所であらう併し以上は皆中毒とも云ふべき例であるが今一時的の中毒が度重つた例を擧げて見よう。



▲過飲•惡醉•二日醉の病狀 飲過及び惡醉は輕微として頭痛を訴へ嘔吐を來し何とも言へぬ苦しさを感ずる。二日醉は飲過或は惡醉の治り切らぬのであるが中には飲んだ當座は左程の苦痛も無いけれど明朝になつて發するのもある何れにしても鈍い頭痛がし元氣は起らず身體何と無く懈く食慾大に進まぬものである。序に此の呑酸噯噫に就いて一言附しておかう。抑々

▲呑酸噯噫の原因は酒の爲のみで無く餅•汁粉•天麩羅其他等を過食して之が醱酵して茲に呑酸噯噫を起す例は何人も目擊する所であらう。此呑酸噯噫を療治せずに放棄つておくと酒類の爲であらうと餅汁粉等の爲であらうと論無く途に一時性で無く立派な胃病になつて重いのになると數月乃至は數年も治らぬやうになる。されば左に夫等の療法を述べておかう

▲酒の過飲惡醉の療法 我國の如く酒を强ふるを以て一種の禮儀の如くになつてる風習あるに於ては不知不識過すこともあるし又平生の量を過さぬやうにしてゐても體の加減で惡醉することもある何れにしても惡醉たり過飲なりにはミツワ制酸錠十錠を半合乃至一合の水に溶かし五分時乃至十分時毎に適宜の量を飲むに限る次に

▲二日醉及呑酸噯噫の療法は矢張ミツワ制酸錠を飲むに限るのであるが併し之と同時にミツワ消化錠を併せ用ふる必要がある元來二日醉でも餅•菓子•汁粉等の爲でも呑酸噯噫のあるといふ譯は其の飲食物が胃中に長い時間止まつてゐる爲に醱酵し胃酸が多過るやうになる所より起るものであるから茲に胃酸を制するやうになつてゐるミツワ制酸錠を用ひ而して一方に又蛋白質例へば魚•鳥•獸の肉•鷄卵•牛乳等の如き物•澱粉質例へば米•飯•餅類•芋類•菓子等の物及び脂肪類をも消化せしめる健胃劑を配合せる理想の消化劑たるヂヤスターゼやパンクレアチン其他のミツハ消化錠を併せ用ふるといふことは衞生を重んずる人の甚だ少からぬ事柄である抑々我國の人は米•飯を主食物とし魚•鳥•獸•其他野菜物を副食物にする風習であるから過食後或は都ての胃病或は他の慢性病に罹れる際本藥を用ひてをれば兎に角食物を消化して身體に吸ひ込ませるから胃腸病は言ふに及ばず其他の疾病にも大に其の治癒を助けるは言ふまでも無いことである

理想の優良石鹸
理想的完全なる優良石鹸は左記の十大特色を有しなければならぬ
一 化學上純石鹸たるべきこと
二 些少の刺戟も無きこと
三 汚垢の落ち易きこと
四 溫雅しき芳香のあるべきこと
五 久しきに耐え半途に溶け崩るゝ憂無きこと
六 其國の人の皮膚に適すべきこと
七 皮膚、毛髪の光澤を麗しくすべきこと
八 水に能く溶解すべきこと
九 人體には刺戟無く殺菌消毒の力あるべきこと
十 價格の低廉なるべきこと
ミツワ石鹸は此十大特色を悉く備へてをり而して(九)の條項にある通り日本人の皮膚に適するやうに出來てゐるのが、特色の特色で理想の優良石鹸といへばミツワ石鹸に限るのである

▲ミツワ制酸錠百五十錠入二十錢 ミツワ消化錠卅錠入十五錢 百廿錠入五十錢 三百五十錠入一圓三十錢には夫々に添てある說明書に述べてある詳しく効能や用法を知らうといふ方は郵券五錢を送らるれば家庭治療法といふ書物を送る之に各病の原因病狀療法等詳しく說明してある元來ミツワ家庭藥は需要者本位で廉く賣り從て取次の口錢が少いけれど勉強する店舗では購買してゐる若し最寄に取次店が無かつたらミツワ石鹸御園白粉發賣元東京日本橋區橘町丸見屋商店へ直接注文あれ又近頃ミツワ家庭藥の需要者が非常に多くなつた爲ミツワ人參錠を始としミツワ家庭藥の各種に類似した賣藥が續々出て來たから求めらるゝ際にはミツワの商標とミツワの文字に能々注意あれ

大阪株式特電

	後場 二十六日
大阪商船	[illegible]
日本郵船	[illegible]
大阪米穀	[illegible]
東京新株	[illegible]
大阪株式	[illegible]

二十六日 七七.四〇 西四.四〇 九六.三〇 一二九.九〇 一六二.九〇 一七一.九〇 一八五.三〇

大阪期米特電 (廿六日)

二月限 一三三.七〇 一三三.〇〇 止め 一三三.七〇 一三三.七三 一四.三一

[illegible]

仁川米豆取引所

▲廿六日後場 [illegible]

▲續いて不勢 [illegible]

▲當限取組增加 [illegible]

一月限 三萬四千七百五十石

九圓八十七錢 九圓七十六錢 九圓八十七錢 九圓七十三錢

朝鮮總督府裁判所書記 早川保次君編著
改訂增補 再版
朝鮮不動產登記申請書式並心得
▲紙數四百八十頁。代價金壹圓。郵税金拾錢
本書中不動產登記の部には土地調査に關聯せるもの及不動產登記法に依る申請書式、官公署の登記に關する囑託書式等併て百貳拾餘件並に印鑑屆、印鑑證明願、改印屆、土地變更事項に關する說明申請(京城府所定)委任狀、契約書、保證書、建物圖面及共同擔保目錄雛形等を揭て加之に官通牒、登記に關する決議、質例等苟も申請人の參考こ爲るべきものは擧て各書式の末尾に之を揭記し以て疑默を釋明し又商業登記の部には未成年者、妻、法定代理人、商號、支配人及各會社に關する申請書式等併て五十餘件を登載し且一讀何人にも了解し得へき程度に之を編纂せり土地所有者、不動產上權利者、會社、代書者必備の參考書たり

朝鮮總督府屬 普成法律商業專門學校講師 西村眞太郎著
朝鮮語會話
特價金七拾錢（但前金に限る郵税申受候）
◎新刊大好評◎ 袖珍三百二十餘頁定價金八拾錢（郵稅六錢）
發賣以來好評嘖々、日未だ淺きにも拘らず、破天荒の賣高を示したる本書は朝鮮語修習上害ありて益なき一切の不必要物を除去し、見掛上の體裁を避けて紙數の膨大を防ぎ、繁に堪へざる單語羅列式の死文字を滅却せり。又彼の言語を學ぶ者の最も困難とする動詞其の他の說明の如き、解釋寨に背りて餘す所なく、一度本書を手にすれば、言葉の應用自由自在にして、所謂『きつぱり』としたる語を學ぶを得べし。而して初學の人士の爲めには巧妙に發音假名を附したるを以つて、世の徒に無駄骨折ること多年、苦心慘憺、漸くにして不自然的なる發音にして、多少の語句を暗記するの愚を避くるを得べし、既に本書の價値は世に定れる評あり。斯道の人士の切に學ばんこ欲する朝鮮語の智識は本書に說き盡して餘蘊なし、敢て江湖に勸む速に本書を求められよ
發行所 京城太平通二丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部
大取次 大阪屋號 日韓書房 嚴松堂 各地支局及書肆

目錄送呈
◎完全無比の覇王グラス萬年筆
米國パアレット會社製 最新インキ止式 眞正十四金ペン先付

◎諸官衙銀行會社其他團體にて多數御購買の向へは特に割引仕候
◎朝鮮總代理店 京城本町二丁目(電話四五番) 振替京城二一五六番 釘本藤次郎本店

最上醬油
特許機械製 ほまれ味噌
絶對的品質本位
鮮滿釀造界唯一の名譽
於始政五年朝鮮物產共進會 金牌受領
釀造元 仁川港 日本醬油株式會社